

JCAB APPROVED

NO. 200-030 DATE H26. 3. 24

(SUPERSEDES NO.)

REV. DATE

(SUPERSEDES NO.)

REASON

SERVICE MANUAL の O-リング交換要求追加

運輸安全委員会より発行された航空重大インシデント調査報告書 (AI2014-1 富士重工業 FA-200-180 型 着陸時の滑走路逸脱) において、O-リングの摩耗が本インシデントの推定原因として挙げられました。この結果を受けて、O-リングの交換要求を明確にするため、主要部品の O-リング交換要求を追加します。

下記に従い、SERVICE MANUAL の該当頁を差替えてご使用頂けますようお願いいたします。

マニュアルページに下線のあるページが変更のあるページです。

(1) SERVICE MANUAL : FA200-101 (P3~14 に差替えページを添付します。)

マニュアルページ

- ・ 6-13 / 6-14
- ・ 6-19 / 6-20
- ・ 9-5 / 9-6
- ・ 9-11 / 9-12
- ・ 9-19 / 9-20
- ・ 9-21 / 9-22

(2) SERVICE MANUAL : FA200-102 (P15~24 に差替えページを添付します。)

マニュアルページ

- ・ 6-11 / 6-12
- ・ 9-5 / 9-6
- ・ 9-11 / 9-12
- ・ 9-19 / 9-20
- ・ 9-21 / 9-22

(3) SERVICE MANUAL : FA200-103 (P25~34 に差替えページを添付します。)

マニュアルページ

- ・ 6-12 / 6-13
- ・ 9-5 / 9-6
- ・ 9-11 / 9-12
- ・ 9-19 / 9-20
- ・ 9-21 / 9-22

(余白ページ)

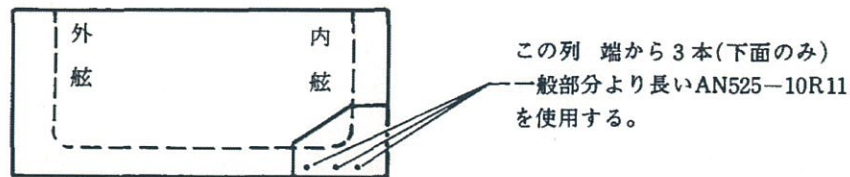


図 6-11 燃料タンク取り付けビス

6-4 燃量計発信器

各燃料タンクには燃料の増減を電氣的出力に変換し指示器に燃料の量を伝えるためのポテンシヨ型燃量計発信器が取り付けられている。また指示器は計器板右パネルにある。その作動は発信器のフロートが燃料の液面上に浮いていて燃料の量の増減によりポテンシヨの抵抗値を変化させる。燃料の量が最大の時抵抗値最小を示し、燃料の量が最小の時抵抗値最大を示す。発信器のフロートアームは約 90 度の角度範囲内を作動する。

6-4-1 燃量計発信器の取りはずし

- (1) 6-3-1 項により燃料タンクを取りはずす。
- (2) 発信器を取り付けている 18 個のボルトを取りはずす。
- (3) フロートを損傷しないように注意して発信器をはずす。

6-4-2 燃量計発信器の修理

この発信器は分解してはならない。発信器を乾燥した圧縮空気等で清掃し発信器の損傷をしらべる。損傷が認められた時は交換する。この発信器には注油を必要としない。

6-4-3 燃量計発信器の取り付け

- (1) 発信器および新しいガスケットを所定の位置におき、取り付けボルト孔に合せる。
- (2) 取り付けボルトを 50 ± 5 lbs のトルクで締める。安全線かける。
- (3) 6-3-3 項により燃料タンクを機体に取り付ける。

6-5 サンプ・タンク

サンプ・タンクは曲技飛行時に燃料切れをおこさないように装備されている。タンクは容量 0.54 GAL (有効 0.25 GAL) のアルミニウム合金溶接製で左前席下に装着されている。タンクには燃料タンクからの配管およびエンジンへの配管が接続される。上面にはベント・ライン、下面にはドレーン・バルブが設けられている。また #100 号機迄の機体にはサンプ・タンクの燃料入口に曲技飛行時燃料が燃料タンクに逆流しないようにヒンジ式のチェック・バルブが取り付けられている。

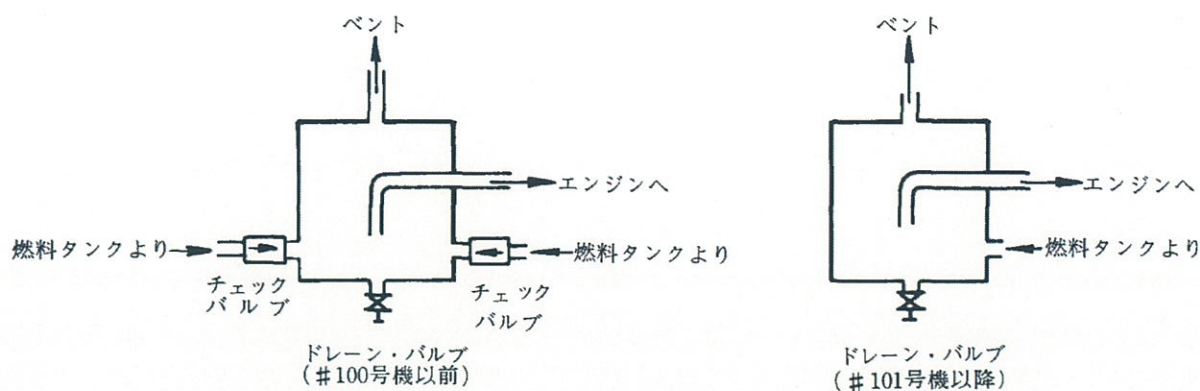


図 6-12 サンプ・タンク断面図

6-5-1 サンプ・タンクの取りはずし

- (1) 燃料コックを「OFF」にして燃料タンクおよびサンプタンクのドレーン・バルブを開き燃料を排出する。
- (2) 左前席を取りはずし、タンク室カバーを取りはずす。
- (3) サンプ・タンクから燃料配管およびベント配管の接続をはずす。
- (4) サンプ・タンクを取り付けているボルトを取りはずす。

6-5-2 サンプ・タンクの取り付け

- (1) 取りはずしの逆の手順により取り付ける。

注 意

#100 号機迄の機体の燃料入口に取り付けられるチェック・バルブは「HINGE」と表示されている側を上側にして取り付ける。

6-6 燃料開閉弁（#100 号機迄の機体）

開閉弁は回転 2 方切換方式で前席中央に装着されている。ハンドルを前方に位置すれば開き、後方に位置すれば閉じる。開閉弁の分解修理はハンドルシャフト部の“O”リングおよび本体のガスケット交換のみとする。開閉弁を分解した場合、“O”リングは新品と交換すること。

6-6-1 燃料開閉弁の取りはずし

- (1) 燃料タンク、サンプタンクおよび燃料ストレーナのドレーンバルブを開き、燃料を排出する。
- (2) 開閉弁上部の作業フタをはずす。
- (3) 開閉弁に接続されている配管をはずす。
- (4) 開閉弁を取り付けているスクリュをはずす。

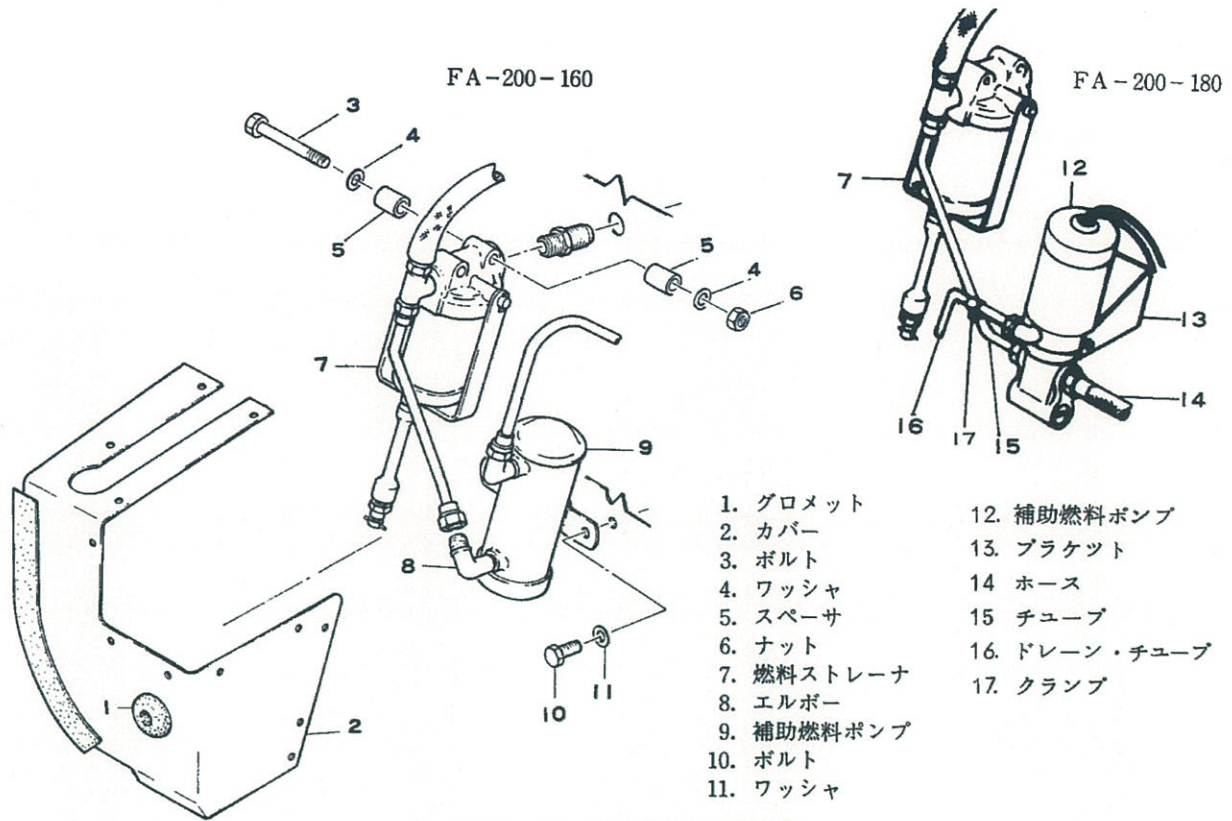


図 6-15 補助燃料ポンプ取付

- (1) 底部のカバー、ガスケット、マグネットおよびフィルタスクリーンをポンプから取りはずす。

注 意

ポンプハウジングよりフィルタ・スクリーンを取りはずす際損傷あたえないよう注意すること。

- (2) うすいノーズプライヤをもちいてプランジャチューブからリテーナスプリングをはずす。
(3) ワッシャ、“O” リングシール、カップバルブおよびプランジャ組立をポンプから取りはずす。

警 告

プランジャ組立から緩衝スプリングとバルブは取りはずさないこと。ポンプ上部区域の電気系統部全体には不活性ガスが入っており、ポンプの側方取付用ブラケットの中心でシールしてあるのでこの区域はいじらぬこと。

6-10-4 ベンディックス補助燃料ポンプの洗浄・点検および修理

- (1) 全ての部品をアセトンまたは相当するドライ・タイプ溶剤で洗浄する。プランジャ組立を洗浄してもき

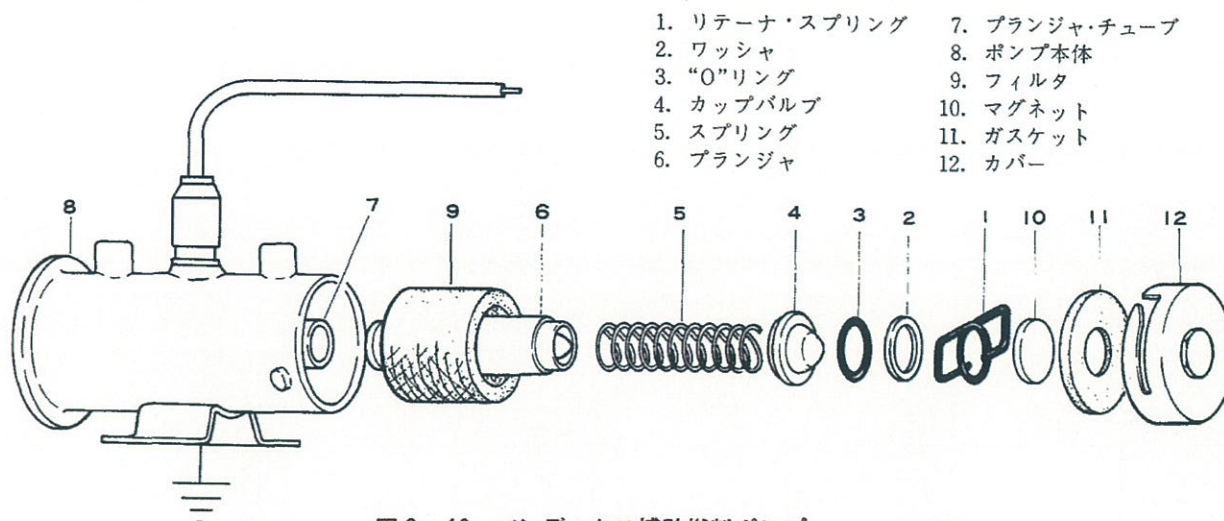


図 6-16 ベンデックス補助燃料ポンプ

れいにならないとき、または粗いしみ、よごれがとれない時はクロッカス・クロースで軽くみがく。

(2) ポンプの点検をつぎの手順で行う。

- a. フィルタ・スクリーンの損傷または変形がないか点検する。
- b. カップ・バルブを軽くつまみ円滑に作動するか点検する。カップ・バルブは分解してはならない。
- c. プランジャ組立を耳のそばで振り、バルブの作動が正常かカチッという音で確認する。
- d. (削除)
- e. カバーガスケットおよびプランジャスプリング、カップガスケットの状態を点検する。

(3) ポンプの修理は点検結果損傷部品があった時の部品交換に限られる。

6-10-5 ベンディックス補助燃料ポンプの組立 (図 6-16 参照)

- (1) プランジャ・アセンブリ (6) を緩衝端部を先にしてチューブ内に挿入する。チューブ内のプランジャをゆっくり上げ下げすることにより完全に組み込まれたか確認する。ひっかかりがなくスムーズに作動しなければならない。もしカチッと音が聞えない場合はインターラプター・アセンブリが完全な機能を果たさないでポンプを交換しなければならない。
- (2) 図 6-16 に示すようにプランジャ・スプリング、カップ・バルブ (4)、“O”リング・シール (3) およびワッシャ (2) を取り付ける。スプリング (5) を圧縮し、チューブ (7) の横孔にリテーナ (1) の端部を組み込む。“O”リングは新品と交換すること。
- (3) カバー (12) 端部にガスケット (11) とマグネット (10) を組み合せフィルタ (9) およびカバー・アセンブリを組み立てる。ポンプ・ハウジング (8) の部分を保持し手でカバーをまわす。5/8 インチを用い、カバーを底に確実に締め付ける。

警 告

ポンプ上部取付ブラケットの中心にあるシールを叩いてはならない。

この部分は電気系統をつつんでいるドライ・ガスが入っている。

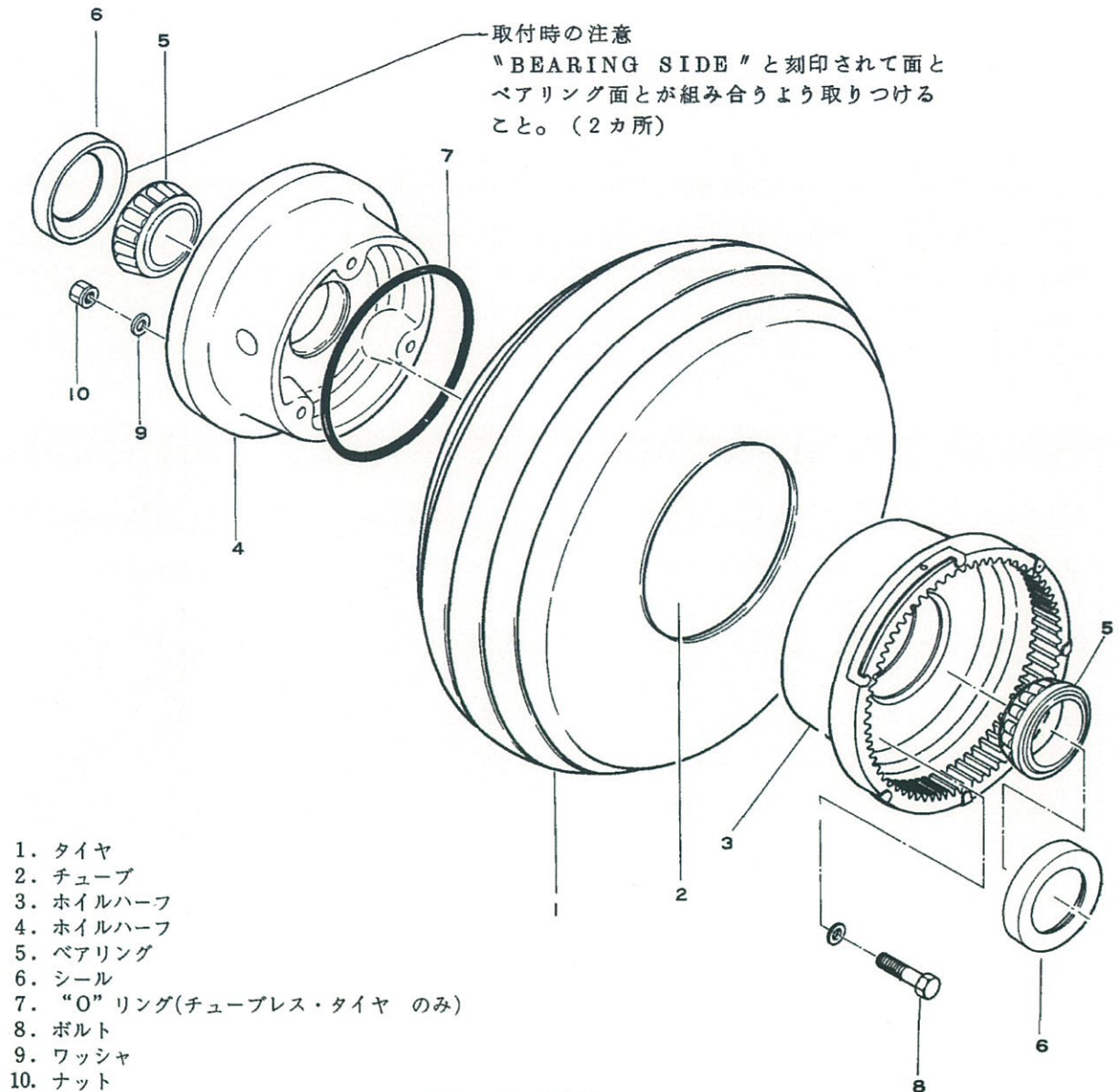


図 9-3 主車輪

9-3-7 主車輪の分解 (図 9-3 参照)

- (1) バルブコアを取りはずしタイヤから完全に空気を抜く。
- (2) ホイル・フランジからタイヤ・ビードをはずす。
- (3) ホイル組付のナット、ワッシャ、およびボルトを取りはずす。
- (4) ホイルを2つ割りにしタイヤ、およびチューブを取りはずす。



注 意

ベアリング、キャップはホイールに圧入されており交換の必要がないかぎり取りはずしてはならない。もしベアリング・キャップを交換する時はホイールを、ふっとうした湯に 30 分間ひたすか 149 °C (300 °F) 以上にならないように加熱して取りはずす。

9-3-8 主車輪の洗浄および点検

- (1) すべての金属部品をドライ・クリーニング溶剤 (P-S-661) で洗浄しかわかす。
- (2) ホイールに損傷およびクラックがないか点検する。もし鋳物にクラックおよび過度の腐食があるものは交換する。小さなき傷やへこみは細かいサンドペーパー (#400) で仕上げる。表面処理がされている部分のはがれやかたい腐食は十分に洗浄しジंकロを 2 回塗りアルミニウム・ラッカーを 2 回塗る。
- (3) ホイールのディスク・ドライブ歯面の損傷および摩耗を点検する。もし歯先から 0.100 IN のところの 0.070 IN の厚さの部分で摩耗が 3 枚またはそれ以上ある場合はホイールを交換する。点検は下記の図のゲージを作り正確に寸法を点検する。

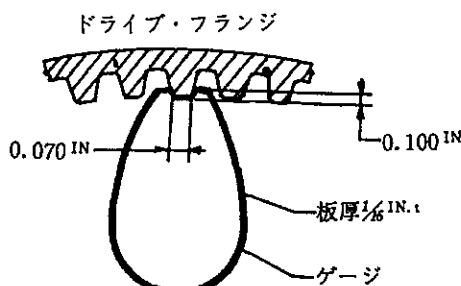


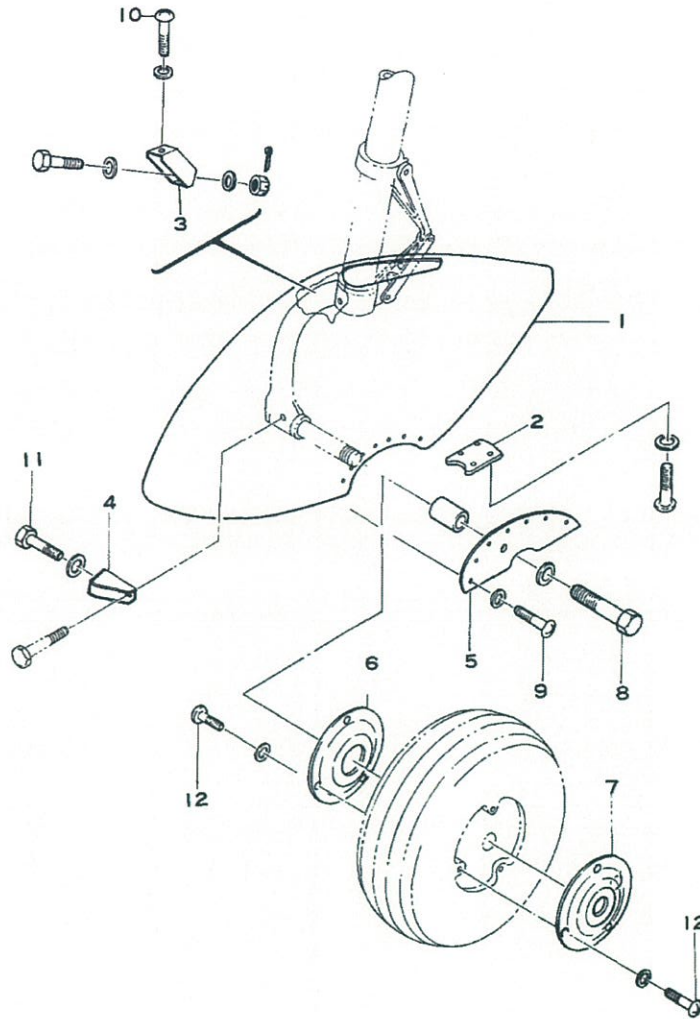
図 9-4 ディスク・ドライブ歯面摩耗測定用ゲージ

- (4) ベアリング・キャップの損傷および摩耗を点検する。ベアリング・キャップは交換の必要が生じない限りホイールから取りはずしてはならない。
- (5) ベアリング・コーンをドライクリーニング溶剤で洗浄し損傷および摩耗を点検する。ベアリングに異常がなければ新しいグリースを塗りキャップに再取り付けする。
- (6) ベアリングシールのシーリング作用に影響するかき傷、変形、および損傷について点検する。損傷部品は交換する。
- (7) ディスク・クリップの取り付け状態、クラックおよび腐食について点検する。必要に応じ交換する。

9-3-9 主車輪の組立 (図 9-3 参照)

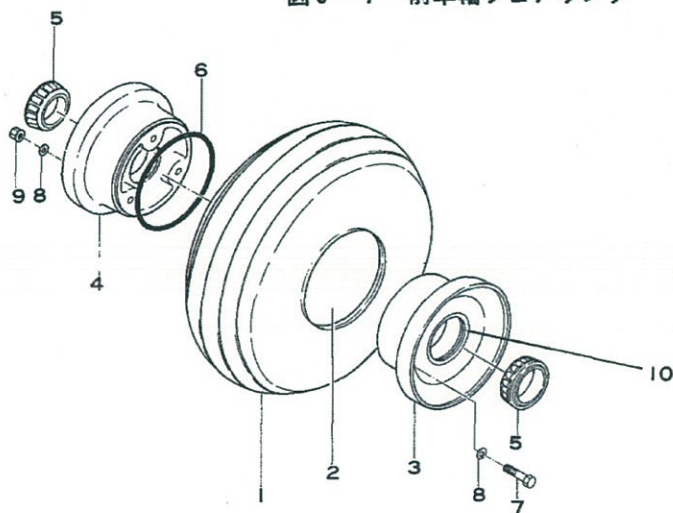
以下の手順により組立てること。また、“0” リングは新品と交換すること。

- (1) チューブ挿入を容易にし、またチューブ保護のためタルカン・パウダーをタイヤ、ケースに散布する。
- (2) チューブをたたんでタイヤケース内に入れる。
- (3) チューブのバランス・マークをタイヤの赤い点に合せる。バランス・マークがなければバルブを赤い点に合せる。
- (4) バルブをバルブ孔から出し各ホイールのバランス・マークに合せてホイールを組付ける。



1. フェアリング
2. スクレッパ
3. 金 具
4. ブラケット
5. プレート
6. キャップ
7. キャップ
8. ボルト
9. スクリュ
10. スクリュ
11. スクリュ
12. スクリュ

図9-7 前車輪フェアリング



1. タイヤ
2. チューブ
3. ホイル・ハーフ
4. ホイル・ハーフ
5. ベアリング
6. Oリング (チューブレス・タイヤのみ)
7. ボルト
8. ワッシャ
9. ナット
10. ベアリング・カップ

図9-8 前車輪



9-4-5 前車輪の分解 (図 9-8 参照)

- (1) バルブ・ステムからバルブ・コアを取りはずし完全にタイヤから空気を抜く。
- (2) フランジからタイヤビードをはずす。
- (3) ホイル組付のナット、ワッシャおよびボルトを取りはずす。
- (4) ホイルを 2 つに割りタイヤ、およびチューブを取りはずす。
- (5) ベアリング・キャップは交換の必要がないかぎり取りはずさない。もし交換する時はふっとうした湯にひたすかまたは 149 °C 以上にならないように加熱して取りはずす。

9-4-6 前車輪の洗浄および点検

- (1) 全ての部品をドライクリーニング溶剤 (P-S-661 または相当品) で洗浄しかわかす。
- (2) ホイルのクラック、ニック、へこみを点検する。小さなき傷は細かいサンドペーパーで仕上げ処理を施す。クラックのはいったホイルは使用してはならない。
- (3) ベアリングコーンおよびキャップの損傷および過度の摩耗を点検する。ベアリングをドライクリーニング溶剤で洗浄しかわかしてコーンにグリース (MIL-G-3545) を塗る。

9-4-7 前車輪の組立 (図 9-8 参照)

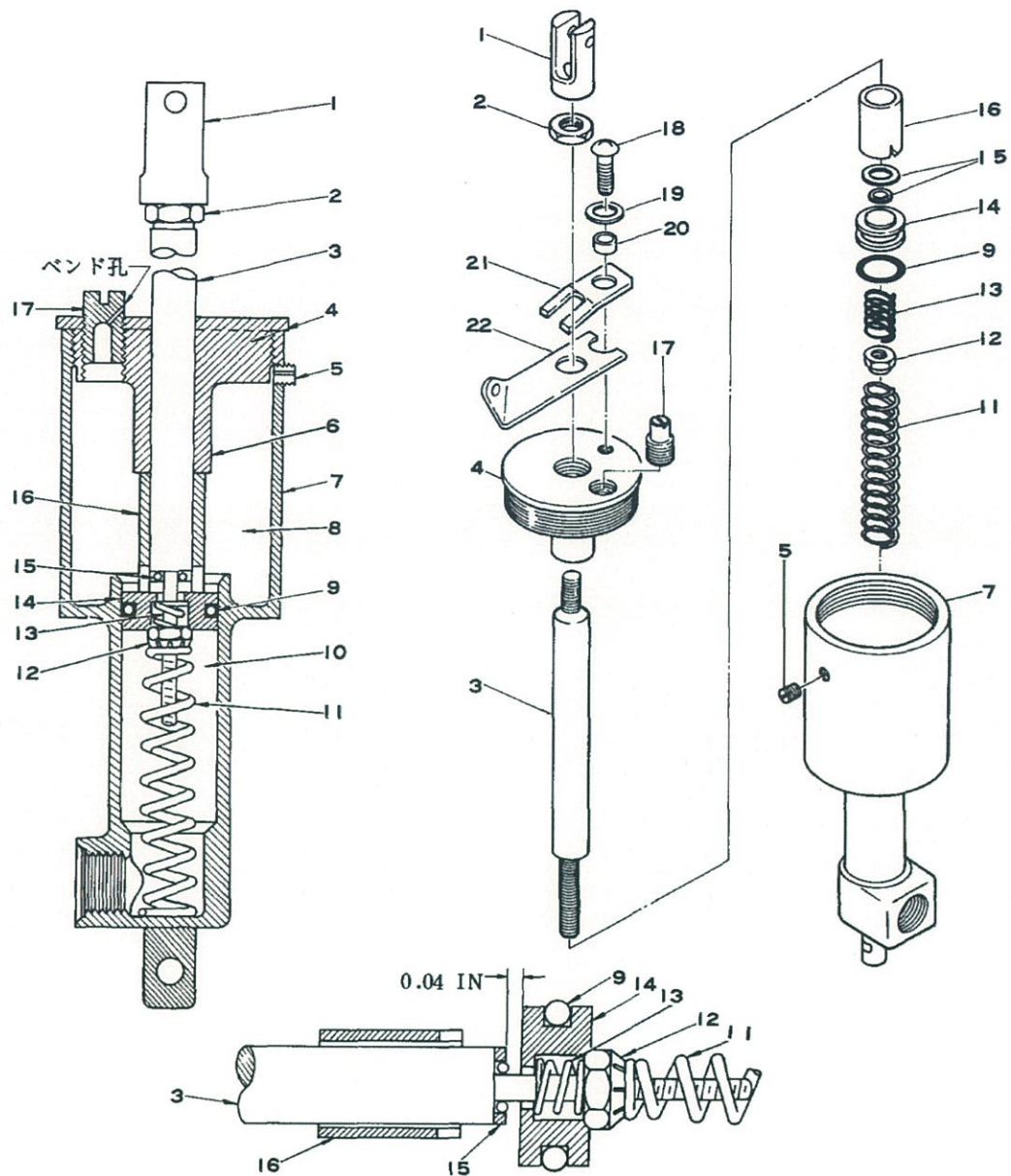
以下の手順により組立てること。また、“O” リングは新品と交換すること。

- (1) ベアリング・カップが取りはずしてある場合はホイール・ハーフを 149 °C (300 °F) に 30 分間加熱しベアリング・カップをドライアイスで冷して取り付ける。
- (2) チューブ挿入を容易にしました、チューブ保護のためタルカン・パウダーをタイヤケース内に散布する。
- (3) チューブをたたくでタイヤケース内に入れる。
- (4) チューブのバランス・マーク (黄色帯状) をタイヤのバランス・マーク (赤い点) に合せる。チューブにバランス・マークがなければバルブを赤い点に合せる。
- (5) バルブをバルブ孔に合せてホイール・ハーフを組付ける。ボルト孔を合せて、反対側のホイール・ハーフを組付けて、83 IN-LBS の締付トルクで締付ける。
- (6) 空気を入れたり出したりしてチューブのシワをとりタイヤの縁をしっかりととめた後、規定の空気圧に注気する。

9-4-8 前脚緩衝支柱の分解 (図 9-9 参照)

次の手順は機体から取りはずされた緩衝支柱について述べる。ホイール、脚柱カバー、およびフェアリングの取りはずしは前項手順による。

- (1) エア・バルブ・キャップ (1) をはずしバルブ・コア (2) より空気を完全に抜く。
- (2) エア・バルブ・ボディ (3) をプラグ (6) より取りはずす。
- (3) スナップリング (5) をはずしてストッパ (8) プラグおよび “O” リング (7) をシリンダ上部より取り出す。
- (4) オリフィスチューブ (9) を抜き出す。
- (5) オイルを排出する。
- (6) トルク・リンク (23) を取りはずす。



- | | |
|------------|---------------|
| 1. クレビス | 12. ナット |
| 2. ナット | 13. パネ |
| 3. ピストンロッド | 14. ピストン |
| 4. カバー | 15. ロック-O-シール |
| 5. ビス | 16. スリーブ |
| 6. カバー | 17. 注入栓 |
| 7. 本体 | 18. ビス |
| 8. 油だめ | 19. ワッシャ |
| 9. 'O'リング | 20. スペーサー |
| 10. シリンダー | 21. パネ |
| 11. パネ | 22. 板 |

図9-12 ブレーキ・マスターシリンダ



9-5-4 マスター・シリンダの修理

マスター・シリンダの分解、修理および組立は図 9-12 を参照して行なう。修理は洗浄、調整、および部品交換に限られる。また、マスター・シリンダの分解時、“O” リングは新品と交換すること。

9-5-5 ホイール・ブレーキ (図 9-13 参照)

油圧作動のシングル・ディスク・ブレーキが各主車輪の軸に取り付けられている。ブレーキ・ハウジングには油圧ブレーキ・ピストンとアンビルおよびピストン・ブレーキ・ライニングがはいっている。ブレーキ・ディスクはアンビルとピストン・ブレーキ・ライニングの間にホイールとともに回転する。ラダー・ペダルを踏むことにより油圧はマスター・シリンダからブレーキに伝わりブレーキを作動させる。

9-5-6 ホイール・ブレーキの取りはずし

- (1) 9-3-5 項により、ホイールを取りはずす。
- (2) ブレーキ配管の接続をはずす。
- (3) ブレーキ・ハウジングを車軸に取り付けているナットおよびボルトをはずしブレーキ・ハウジングを車軸から取りはずす。

9-5-7 ホイール・ブレーキの分解 (図 9-13 参照)

- (1) ブレーキ・ハウジングよりブレーキ・ディスク、およびブレーキ・ライニングを取りはずす。
- (2) ブリーダ・スクリュおよびブリーダ・ワッシャを取りはずす。
- (3) リターニング・リングを取りはずし、シリンダ・ヘッドおよびシリンダ・ヘッド “O” リングを取りはずす。
- (4) ブレーキ・ハウジングからピストンを抜き出す。
- (5) ピストンから “O” リングシールを取りはずす。
- (6) ブレーキ・ハウジングよりプラグおよびガスケットを取りはずす。

9-5-8 ホイール・ブレーキの洗浄、点検および修理

- (1) 全ての金属部品はドライクリーニング溶剤で洗浄し充分にかわす。
- (2) 摩耗および損傷部品は交換または修理する。
- (3) 1/16 IN 以上のへこみのあるブレーキ・ディスクは交換する。
- (4) 厚さが 0.225 IN 以下のブレーキ・ディスクは交換する。
- (5) ブレーキ・ハウジングの摩耗および損傷を点検する。小さなニックまたは腐食は細かいサンド・ペーパー (#380) で仕上げ、ジंकロを 2 回塗り、その後アルミニウム・ラッカーを 2 回塗る。
- (6) シリンダ面およびピストンの摺動面の損傷を点検する。小さなかききずおよびニックは細かいサンドペーパー (#400) で取りのぞく。
- (7) ブレーキ・ライニングは 3-2-15 項により点検し許容値以下のものは交換する。ライニング交換はセットで行なう。使用されたライニングと新品を混用してはならない。

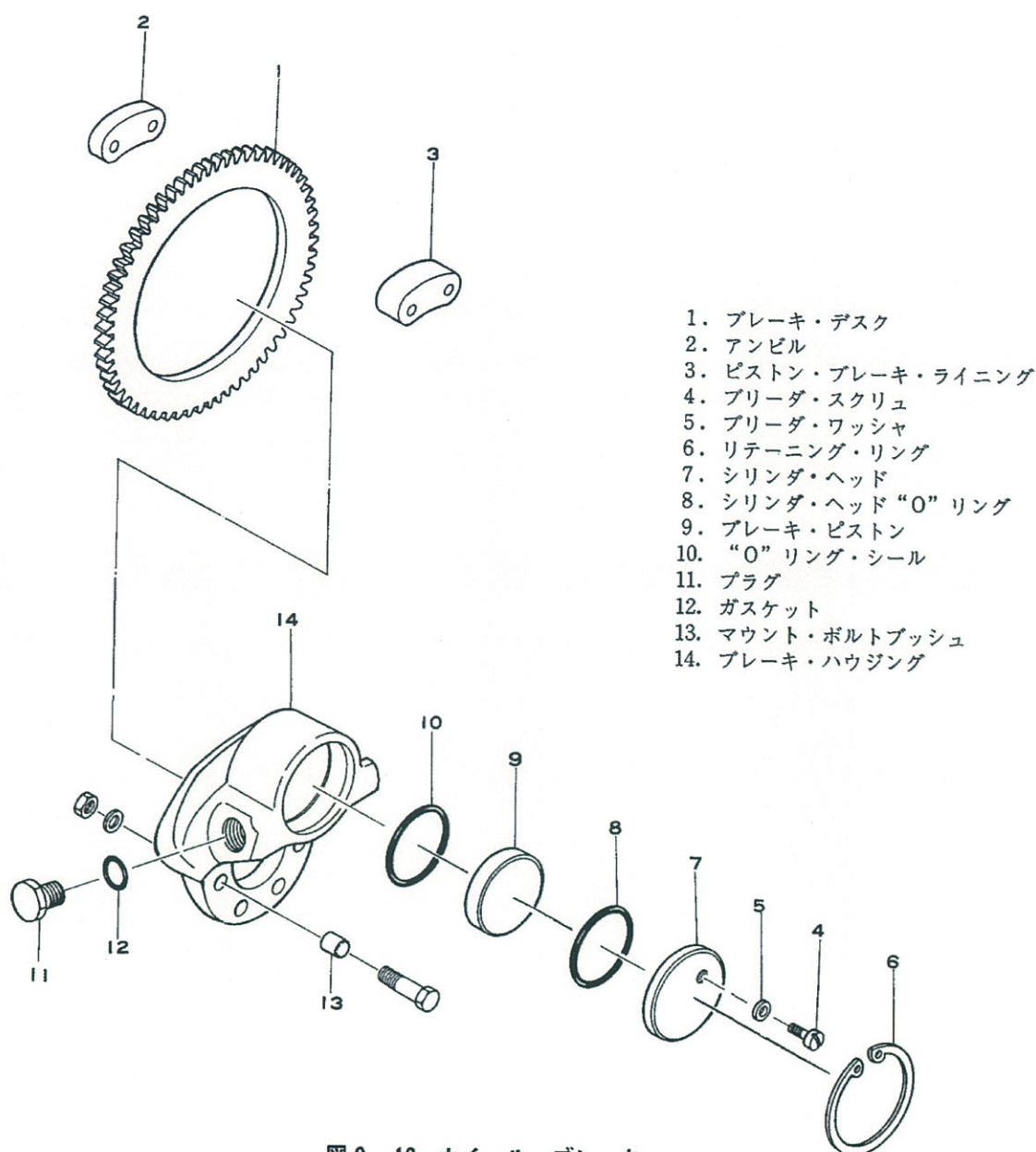


図 9-13 ホイール・ブレーキ

9-5-9 ホイール・ブレーキの組立 (図 9-13 参照)

- (1) ブレーキ・ハウジングのシリンダ面、ピストン摺動面およびシリンダ・ヘッドに MIL-G-7711 または同等のグリースを塗る。
- (2) シリンダ・ヘッド “O” リングシールを新品と交換し、MIL-G-7711 または同等のグリースを塗りシリンダ・ヘッドに取り付ける。
- (3) ピストン “O” リング・シールを新品と交換し、MIL-G-7711 または同等のグリースを塗りピストンに取り付ける。
- (4) ピストンの厚い部分をブレーキ・ライニング側にしてピストンをブレーキ・ハウジングに取り付ける。



- (5) 機体に取り付けた時シリンダ・ヘッドのブリーダ孔が上部に位置しかつ、リテーニング・リング端部の間になるようにシリンダ・ヘッドをブレーキハウジングにリテーニング・リングで取り付ける。
- (6) 厚いブレーキ・ライニングのなめらかな方をディスク側としてブレーキ・ハウジングのピストン側に取り付ける。
- (7) 薄いブレーキ・ライニングのなめらかな方をディスク側としてブレーキ・ハウジングのアンビル側に取り付ける。
- (8) ブレーキ・ライニングの間にブレーキ・ディスクを取り付ける。
- (9) ガasketを新品と交換し、ガスケットおよびプラグをブレーキ・ハウジングに取り付ける。
- (10) ブリーダ・スクリュおよびブリーダ・ワッシャを取り付ける。

9-5-10 ホイール・ブレーキの取り付け

取り付けは取りはずしの手順を逆に行ない9-5-11 項によりブレーキ系統の空気抜きを行なう。

9-5-11 ブレーキ系統の空気抜き (図 9-14 参照)

- (1) マスター・シリンダ給油孔蓋をはずし、給油孔内にホース組立を取付ける。ホースの他端を充分浸せる程度にブレーキ作動油を入れた缶の中に挿入する。
- (2) ブレーキ組立からブリーダー・スクリュをはずし、プラグ組立 (200-590067-001) およびホース又はハンドポンプとブリーダー孔を通じさせる。ブレーキ組立のところで油が導入されるに伴い、ブレーキ系統から気泡が押し出されてくる徴候をたしかめるため、マスター・シリンダに取付けられたホースの油に浸された端部を観察する。気泡の発生が終ったときに、ブレーキ組立に取付けたブリーダー・ホースを取りはずし、ブリーダー・小ネジと新しいワッシャを取り付ける。

注 意

マスター・シリンダに取付けられたホースの他端が空気抜き過程の間中、油に浸されたままに保ち (2) の手順が完了するまで引き出さないように注意する。

- (3) ホース組立をマスター・シリンダから取りはずし、給油孔蓋をつける。

9-6 パーキングブレーキ装置

パーキングは、ブレーキを踏んだ状態で操作ノブを引き、時計方向に回して固定する。操作ノブを引く事によってマスター・シリンダについているロック用プレートを引き上げる。この状態でラダー・ペダルを踏んではならない。パーキングの索が切れる事がある。

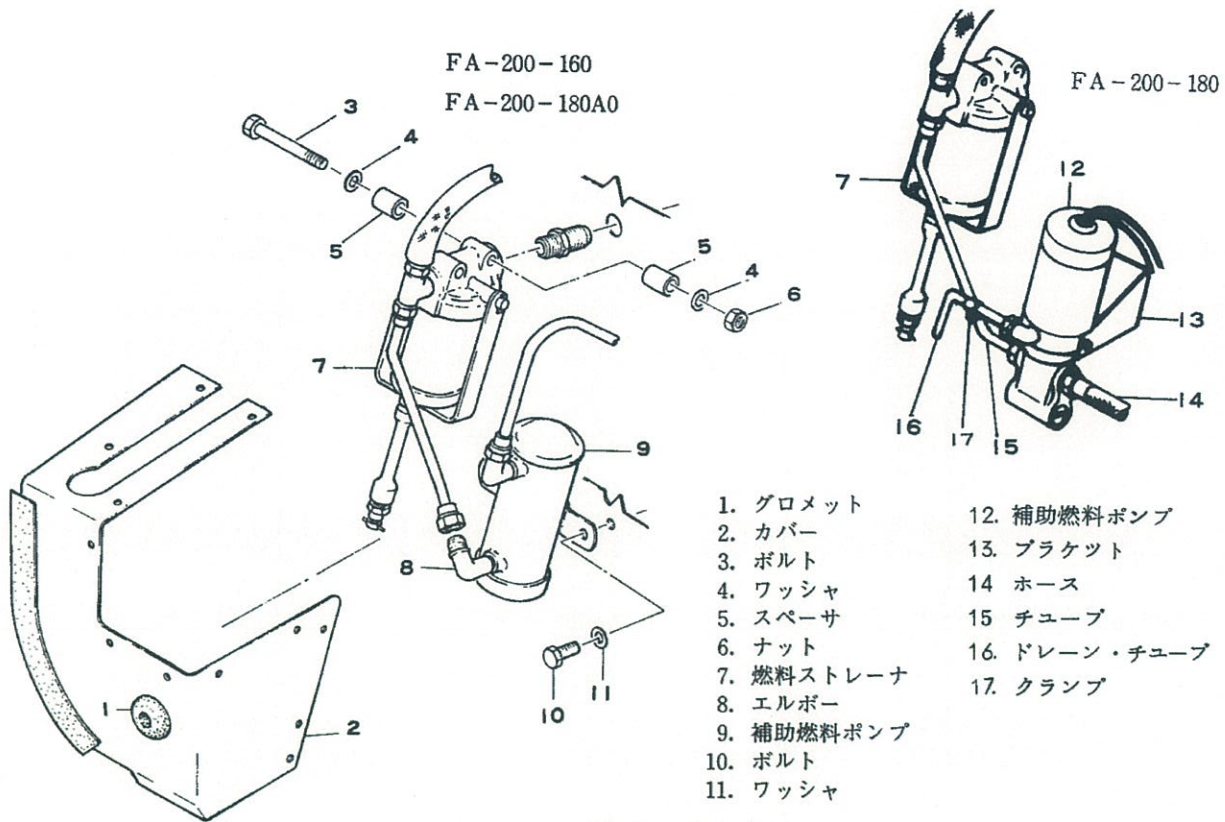


図 6-6 補助燃料ポンプ取付

- (1) 底部のカバー、ガスケット、マグネットおよびフィルタスクリーンをポンプから取りはずす。

注 意

ポンプハウジングよりフィルタ・スクリーンを取りはずす際損傷あたえないよう注意すること。

- (2) うすいノーズプライヤをもちいてプランジャチューブからリテーナスプリングをはずす。
(3) ワッシャ、“O” リングシール、カップバルブおよびプランジャ組立をポンプから取りはずす。

警 告

プランジャ組立から緩衝スプリングとバルブは取りはずさないこと。ポンプ上部区域の電気系統部全体には不活性ガスが入っており、ポンプの側方取付用ブラケットの中心でシールしてあるのでこの区域はいじらぬこと。

6-8-4 ベンディックス補助燃料ポンプの洗浄・点検および修理

- (1) 全ての部品をアセトンまたは相当するドライ・タイプ溶剤で洗浄する。プランジャ組立を洗浄してもき

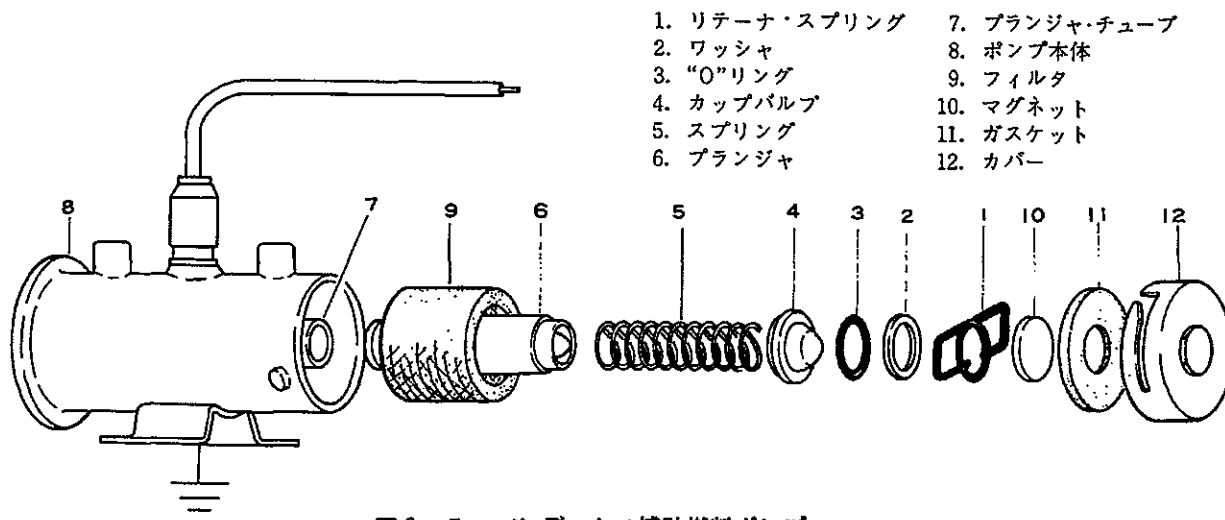


図 6-7 ベンデックス補助燃料ポンプ

れいにならないとき、または粗いしみ、よごれがとれない時はクロッカス・クロースで軽くみがく。

(2) ポンプの点検をつぎの手順で行う。

- a. フィルタ・スクリーンの損傷または変形がないか点検する。
- b. カップ・バルブを軽くつまみ円滑に作動するか点検する。カップ・バルブは分解してはならない。
- c. プランジャ組立を耳のそばで振り、バルブの作動が正常かカチッという音で確認する。
- d. (削除)
- e. カバーガスケットおよびプランジャスプリング、カップガスケットの状態を点検する。

(3) ポンプの修理は点検結果損傷部品があった時の部品交換に限られる。

6-8-5 ベンディックス補助燃料ポンプの組立 (図 6-7 参照)

- (1) プランジャ・アセンブリ (6) を緩衝端部を先にしてチューブ内に挿入する。チューブ内のプランジャをゆっくり上げ下げすることにより完全に組み込まれたか確認する。ひっかかりがなくスムーズに作動しなければならない。もしカチッと音が聞えない場合はインターラプター・アセンブリが完全な機能を果たさないでポンプを交換しなければならない。
- (2) 図 6-16 に示すようにプランジャ・スプリング、カップ・バルブ (4)、“O”リング・シール (3) およびワッシャ (2) を取り付ける。スプリング (5) を圧縮し、チューブ (7) の横孔にリテーナ (1) の端部を組み込む。“O”リングは新品と交換すること。
- (3) カバー (12) 端部にガスケット (11) とマグネット (10) を組み合せフィルタ (9) およびカバー・アセンブリを組み立てる。ポンプ・ハウジング (8) の部分を保持し手でカバーをまわす。5/8 インチを用い、カバーを底に確実に締め付ける。

警 告

ポンプ上部取付ブラケットの中心にあるシールを叩いてはならない。

この部分は電気系統をつつんでいるドライ・ガスが入っている。

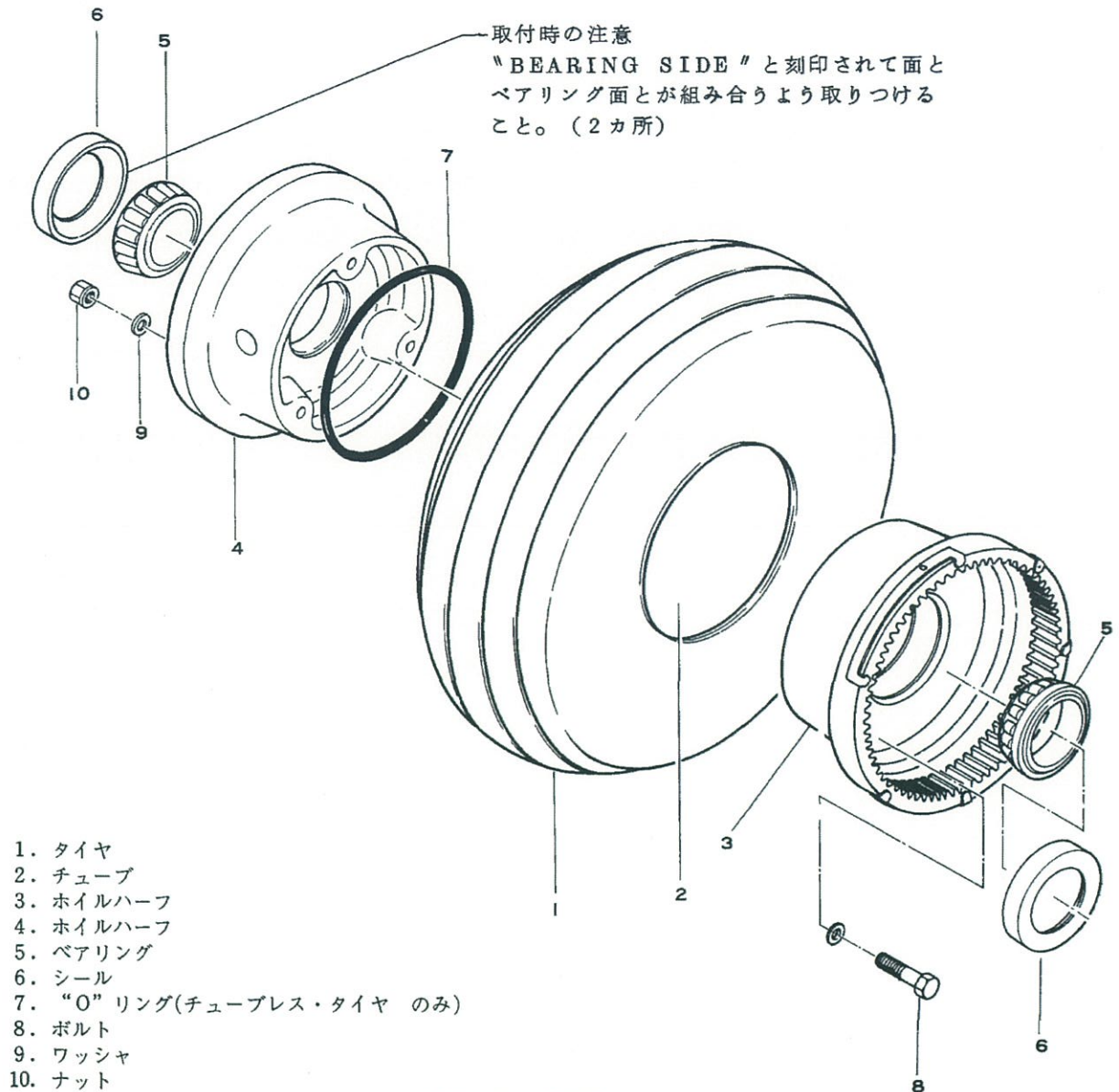


図9-3 主車輪

9-3-7 主車輪の分解 (図9-3 参照)

- (1) バルブコアを取りはずしタイヤから完全に空気を抜く。
- (2) ホイル・フランジからタイヤ・ビードをはずす。
- (3) ホイル組付のナット、ワッシャ、およびボルトを取りはずす。
- (4) ホイルを2つ割りにしタイヤ、およびチューブを取りはずす。



注 意

ベアリング、キャップはホイールに圧入されており交換の必要がないかぎり取りはずしてはならない。もしベアリング・キャップを交換する時はホイールを、ふつとした湯に 30 分間ひたすか 149 °C (300 °F) 以上にならないように加熱して取りはずす。

9-3-8 主車輪の洗浄および点検

- (1) すべての金属部品をドライ・クリーニング溶剤 (P-S-661) で洗浄しかわす。
- (2) ホイールに損傷およびクラックがないか点検する。もし鋳物にクラックおよび過度の腐食があるものは交換する。小さなかき傷やへこみは細かいサンドペーパー (#400) で仕上げる。表面処理がされている部分のはがれやかき傷は十分に洗浄しジンを 2 回塗りアルミニウム・ラッカーを 2 回塗る。
- (3) ホイールのディスク・ドライブ歯面の損傷および摩耗を点検する。もし歯先から 0.100 IN のところの 0.070 IN の厚さの部分で摩耗が 3 枚またはそれ以上ある場合はホイールを交換する。点検は下記の図のゲージを作り正確に寸法を点検する。

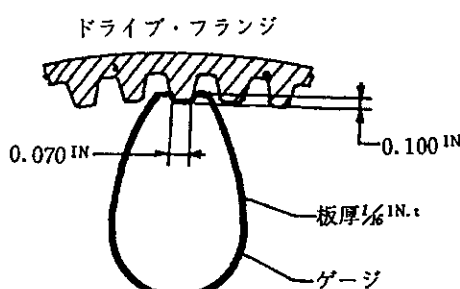


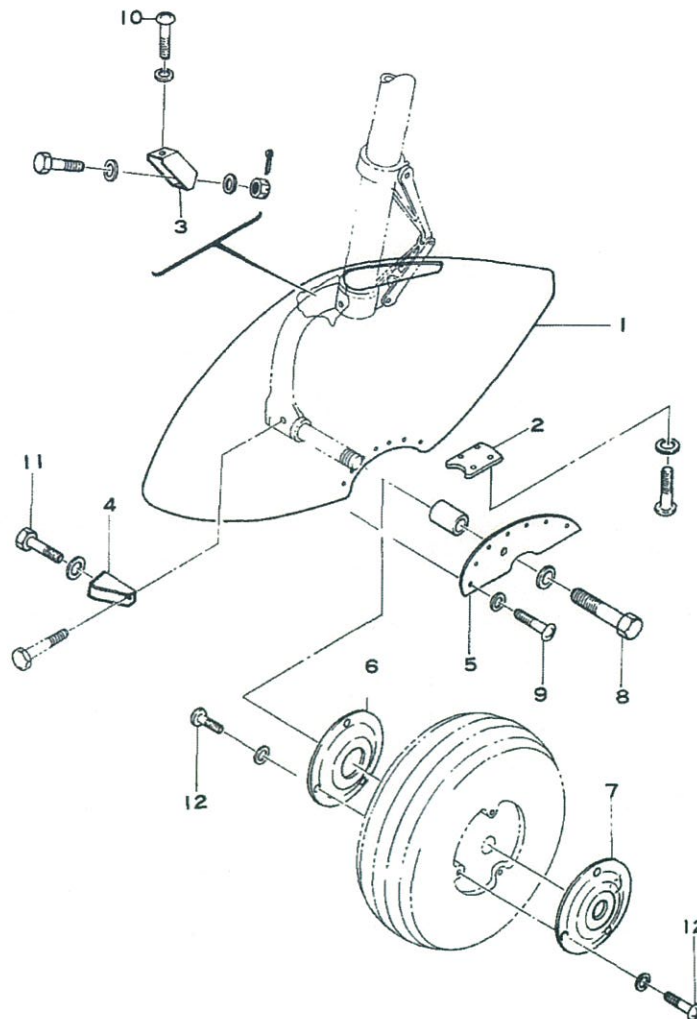
図 9-4 ディスク・ドライブ歯面摩耗測定用ゲージ

- (4) ベアリング・キャップの損傷および摩耗を点検する。ベアリング・キャップは交換の必要が生じない限りホイールから取りはずしてはならない。
- (5) ベアリング・コーンをドライクリーニング溶剤で洗浄し損傷および摩耗を点検する。ベアリングに異常がなければ新しいグリースを塗りキャップに再取り付けする。
- (6) ベアリングシールのシーリング作用に影響するかき傷、変形、および損傷について点検する。損傷部品は交換する。
- (7) ディスク・クリップの取り付け状態、クラックおよび腐食について点検する。必要に応じ交換する。

9-3-9 主車輪の組立 (図 9-3 参照)

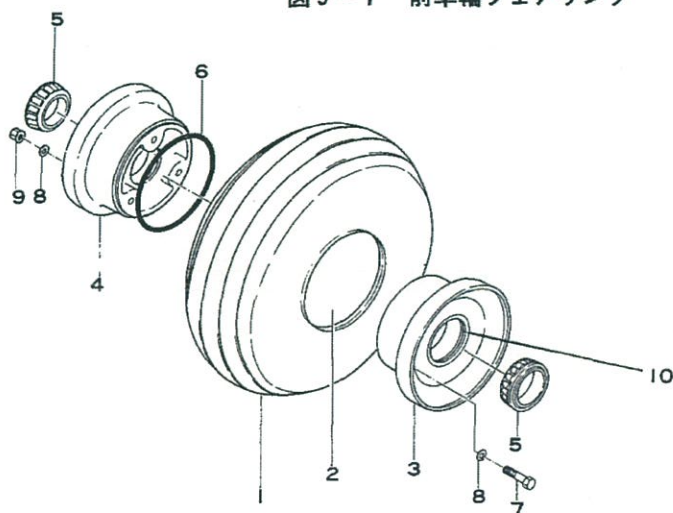
以下の手順により組立てること。また、“O” リングは新品と交換すること。

- (1) チューブ挿入を容易にし、またチューブ保護のためタルカン・パウダーをタイヤ、ケースに散布する。
- (2) チューブをたたんでタイヤケース内に入れる。
- (3) チューブのバランス・マークをタイヤの赤い点に合せる。バランス・マークがなければバルブを赤い点に合せる。
- (4) バルブをバルブ孔から出し各ホイールのバランス・マークに合せてホイールを組付ける。



1. フェアリング
2. スクレッパ
3. 金 具
4. ブラケット
5. プレート
6. キャップ
7. キャップ
8. ボルト
9. スクリュ
10. スクリュ
11. スクリュ
12. スクリュ

図 9-7 前車輪フェアリング



1. タイヤ
2. チューブ
3. ホイル・ハーフ
4. ホイル・ハーフ
5. ベアリング
6. Oリング (チューブレス・タイヤのみ)
7. ボルト
8. ワッシャ
9. ナット
10. ベアリング・カップ

図 9-8 前車輪



9-4-5 前車輪の分解 (図 9-8 参照)

- (1) バルブ・ステムからバルブ・コアを取りはずし完全にタイヤから空気を抜く。
- (2) フランジからタイヤビードをはずす。
- (3) ホイル組付のナット、ワッシャおよびボルトを取りはずす。
- (4) ホイルを 2 つに割りタイヤ、およびチューブを取りはずす。
- (5) ベアリング・キャップは交換の必要がないかぎり取りはずさない。もし交換する時はふっとうした湯にひたすかまたは 149 °C 以上にならないように加熱して取りはずす。

9-4-6 前車輪の洗浄および点検

- (1) 全ての部品をドライクリーニング溶剤 (P-S-661 または相当品) で洗浄しかわかす。
- (2) ホイルのクラック、ニック、へこみを点検する。小さなき傷は細かいサンドペーパーで仕上げ処理を施す。クラックのはいったホイルは使用してはならない。
- (3) ベアリングコーンおよびキャップの損傷および過度の摩耗を点検する。ベアリングをドライクリーニング溶剤で洗浄しかわかしてコーンにグリース (MIL-G-3545) を塗る。

9-4-7 前車輪の組立 (図 9-8 参照)

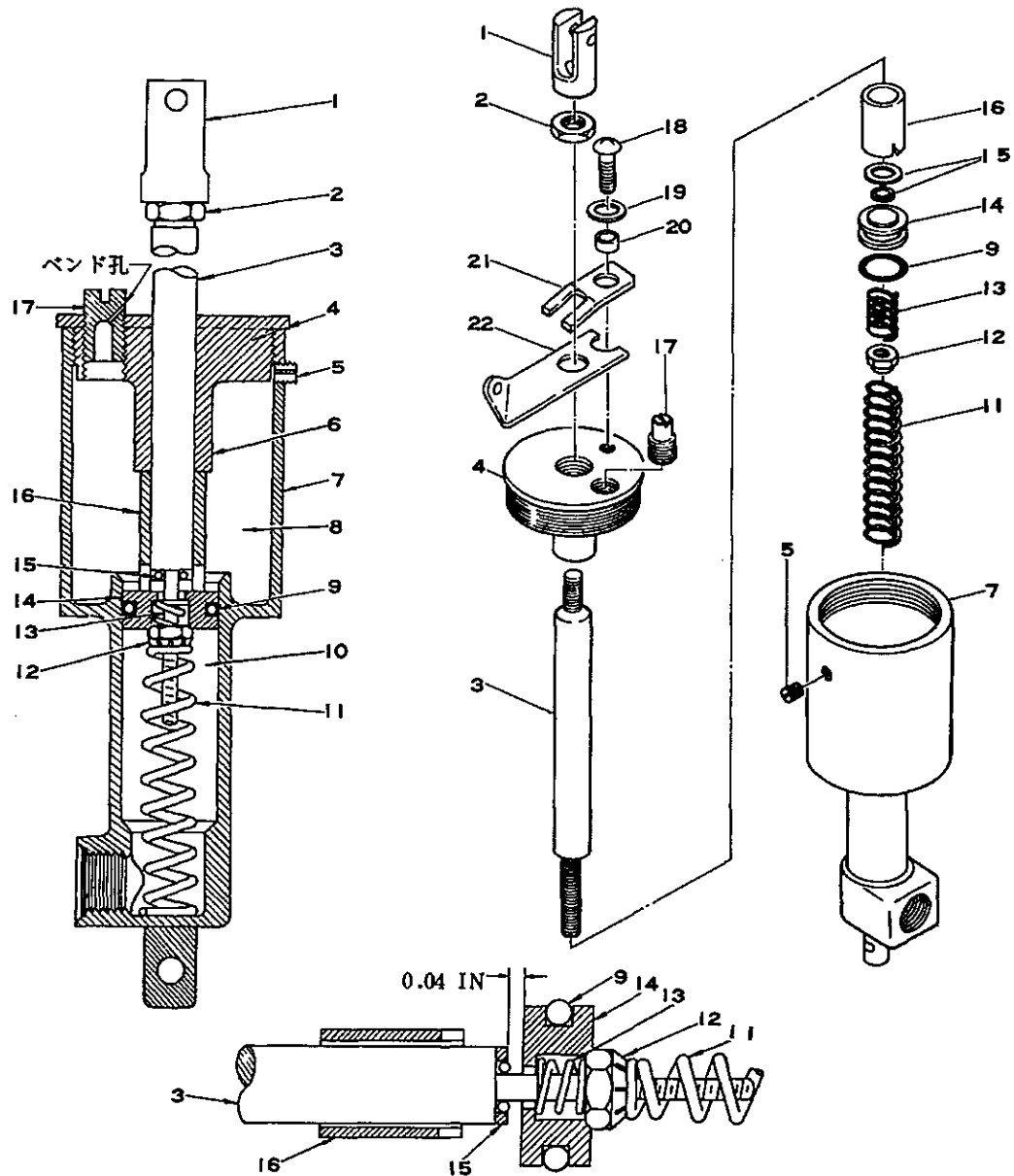
以下の手順により組立てること。また、“0” リングは新品と交換すること。

- (1) ベアリング・カップが取りはずしてある場合はホイール・ハーフを 149 °C (300 °F) に 30 分間加熱しベアリング・カップをドライアイスで冷して取り付ける。
- (2) チューブ挿入を容易にした、チューブ保護のためタルカン・パウダーをタイヤケース内に散布する。
- (3) チューブをたたんでタイヤケース内に入れる。
- (4) チューブのバランス・マーク (黄色帯状) をタイヤのバランス・マーク (赤い点) に合せる。チューブにバランス・マークがなければバルブを赤い点に合せる。
- (5) バルブをバルブ孔に合せてホイール・ハーフを組付ける。ボルト孔を合せて、反対側のホイール・ハーフを組付けて、83 IN-LBS の締付トルクで締付ける。
- (6) 空気を入れたり出したりしてチューブのシワをとりタイヤの縁をしっかりととめた後、規定の空気圧に注気する。

9-4-8 前脚緩衝支柱の分解 (図 9-9 参照)

次の手順は機体から取りはずされた緩衝支柱について述べる。ホイール、脚柱カバー、およびフェアリングの取りはずしは前項手順による。

- (1) エア・バルブ・キャップ (1) をはずしバルブ・コア (2) より空気を完全に抜く。
- (2) エア・バルブ・ボディ (3) をプラグ (6) より取りはずす。
- (3) スナップリング (5) をはずしてストッパ (8) プラグおよび “0” リング (7) をシリンダ上部より取り出す。
- (4) オリフィスチューブ (9) を抜き出す。
- (5) オイルを排出する。
- (6) トルク・リンク (23) を取りはずす。



- | | |
|------------|---------------|
| 1. クレビス | 12. ナット |
| 2. ナット | 13. バネ |
| 3. ピストンロッド | 14. ピストン |
| 4. カバー | 15. ロック-O-シール |
| 5. ピス | 16. スリーブ |
| 6. カバー | 17. 注入栓 |
| 7. 本体 | 18. ピス |
| 8. 油だめ | 19. ワッシャ |
| 9. "O"リング | 20. スペーサー |
| 10. シリンダー | 21. バネ |
| 11. バネ | 22. 板 |

図9-12 ブレーキ・マスターシリンダ



9-5-4 マスター・シリンダの修理

マスター・シリンダの分解、修理および組立は図 9-12 を参照して行なう。修理は洗浄、調整、および部品交換に限られる。また、マスター・シリンダの分解時、“O” リングは新品と交換すること。

9-5-5 ホイール・ブレーキ (図 9-13 参照)

油圧作動のシングル・ディスク・ブレーキが各主車輪の軸に取り付けられている。ブレーキ・ハウジングには油圧ブレーキ・ピストンとアンビルおよびピストン・ブレーキ・ライニングがはいっている。ブレーキ・ディスクはアンビルとピストン・ブレーキ・ライニングの間にホイールとともに回転する。ラダー・ペダルを踏むことにより油圧はマスター・シリンダからブレーキに伝わりブレーキを作動させる。

9-5-6 ホイール・ブレーキの取りはずし

- (1) 9-3-5 項により、ホイールを取りはずす。
- (2) ブレーキ配管の接続をはずす。
- (3) ブレーキ・ハウジングを車軸に取りつけているナットおよびボルトをはずしブレーキ・ハウジングを車軸から取りはずす。

9-5-7 ホイール・ブレーキの分解 (図 9-13 参照)

- (1) ブレーキ・ハウジングよりブレーキ・ディスク、およびブレーキ・ライニングを取りはずす。
- (2) ブリダ・スクリュおよびブリダ・ワッシャを取りはずす。
- (3) リテーニング・リングを取りはずし、シリンダ・ヘッドおよびシリンダ・ヘッド “O” リングを取りはずす。
- (4) ブレーキ・ハウジングからピストンを抜き出す。
- (5) ピストンから “O” リングシールを取りはずす。
- (6) ブレーキ・ハウジングよりプラグおよびガスケットを取りはずす。

9-5-8 ホイール・ブレーキの洗浄、点検および修理

- (1) 全ての金属部品はドライクリーニング溶剤で洗浄し充分にかわかす。
- (2) 摩耗および損傷部品は交換または修理する。
- (3) 1/16 IN 以上のへこみのあるブレーキ・ディスクは交換する。
- (4) 厚さが 0.225 IN 以下のブレーキ・ディスクは交換する。
- (5) ブレーキ・ハウジングの摩耗および損傷を点検する。小さなニックまたは腐食は細かいサンド・ペーパー (#380) で仕上げ、ジंकロを 2 回塗り、その後アルミニウム・ラッカーを 2 回塗る。
- (6) シリンダ面およびピストンの摺動面の損傷を点検する。小さなかききずおよびニックは細かいサンドペーパー (#400) で取りのぞく。
- (7) ブレーキ・ライニングは 3-2-15 項により点検し許容値以下のものは交換する。ライニング交換はセットで行なう。使用されたライニングと新品を混用してはならない。

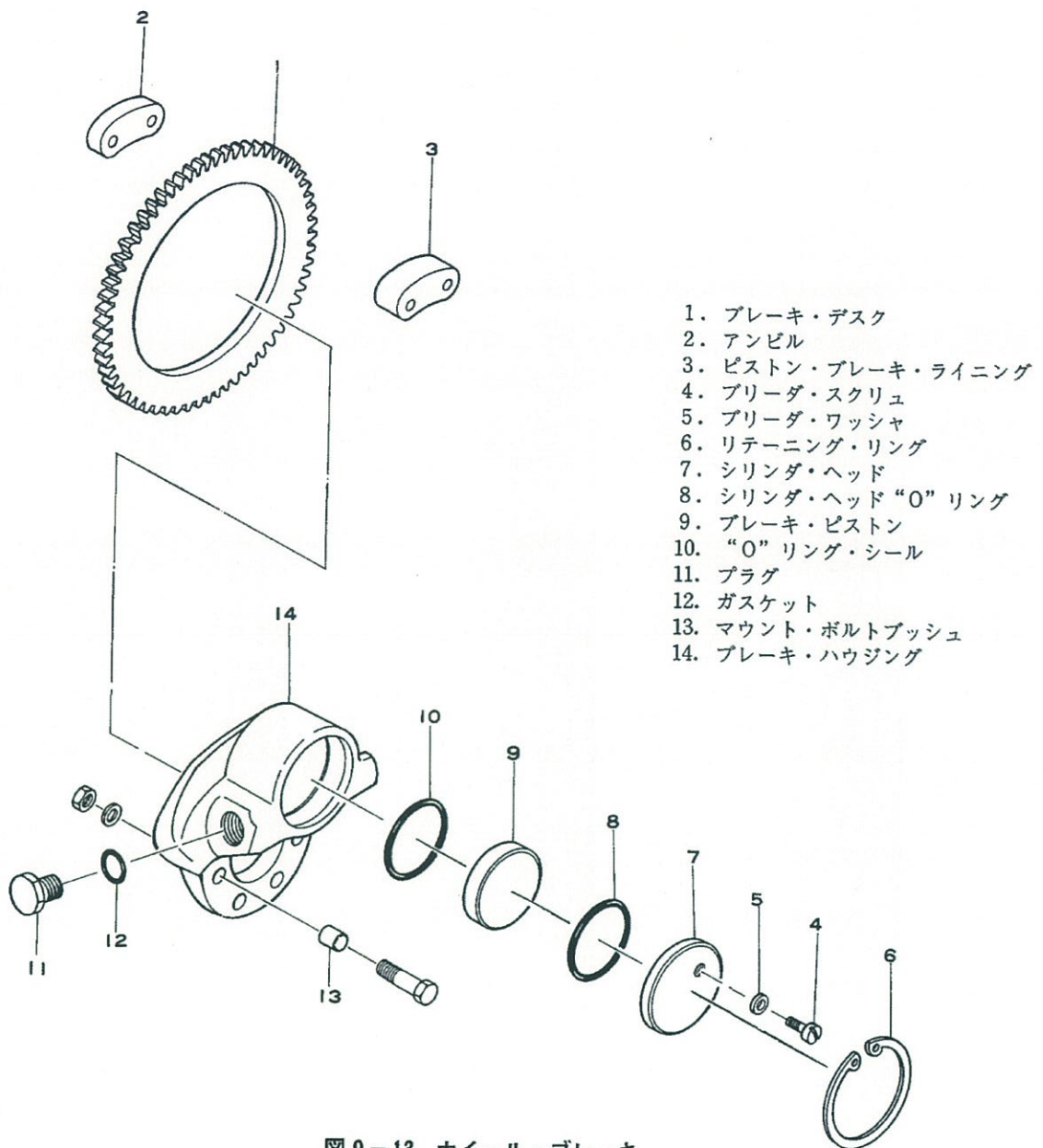


図 9-13 ホイール・ブレーキ

9-5-9 ホイール・ブレーキの組立 (図 9-13 参照)

- (1) ブレーキ・ハウジングのシリンダ面、ピストン摺動面およびシリンダ・ヘッドに MIL-G-7711 または同等のグリースを塗る。
- (2) シリンダ・ヘッド "O" リングシールを新品と交換し、MIL-G-7711 または同等のグリースを塗りシリンダ・ヘッドに取り付ける。
- (3) ピストン "O" リング・シールを新品と交換し、MIL-G-7711 または同等のグリースを塗りピストンに取り付ける。
- (4) ピストンの厚い部分をブレーキ・ライニング側にしてピストンをブレーキ・ハウジングに取り付ける。



- (5) 機体に取り付けた時シリンダ・ヘッドのブリーダ孔が上部に位置しかつ、リテーニング・リング端部の間になるようにシリンダ・ヘッドをブレーキ・ハウジングにリテーニング・リングで取り付ける。
- (6) 厚いブレーキ・ライニングのなめらかな方をディスク側としてブレーキ・ハウジングのピストン側に取り付ける。
- (7) 薄いブレーキ・ライニングのなめらかな方をディスク側としてブレーキ・ハウジングのアンビル側に取り付ける。
- (8) ブレーキ・ライニングの間にブレーキ・ディスクを取り付ける。
- (9) ガasketを新品と交換し、ガスケットおよびプラグをブレーキ・ハウジングに取り付ける。
- (10) ブリーダ・スクリュおよびブリーダ・ワッシャを取り付ける。

9-5-10 ホイール・ブレーキの取り付け

取り付けは取りはずしの手順を逆に行ない 9-5-11 項によりブレーキ系統の空気抜きを行なう。

9-5-11 ブレーキ系統の空気抜き (図 9-14 参照)

- (1) マスター・シリンダ給油孔蓋をはずし、給油孔内にホース組立を取付ける。ホースの他端を充分浸せる程度にブレーキ作動油を入れた缶の中に挿入する。
- (2) ブレーキ組立からブリーダー・スクリュをはずし、プラグ組立 (200-590067-001) およびホース又はハンドポンプとブリーダー孔を通じさせる。ブレーキ組立のところで油が導入されるに伴い、ブレーキ系統から気泡が押し出されてくる徴候をたしかめるため、マスター・シリンダに取付けられたホースの油に浸された端部を観察する。気泡の発生が終ったときに、ブレーキ組立に取付けたブリーダー・ホースを取りはずし、ブリーダー・小ネジと新しいワッシャを取り付ける。

注 意

マスター・シリンダに取付けられたホースの他端が空気抜き過程の間中、油に浸されたままに保ち (2) の手順が完了するまで引き出さないように注意する。

- (3) ホース組立をマスター・シリンダから取りはずし、給油孔蓋をつける。

9-6 パーキングブレーキ装置

パーキングは、ブレーキを踏んだ状態で操作ノブを引き、時計方向に回して固定する。操作ノブを引く事によってマスター・シリンダについているロック用プレートを引き上げる。この状態でラダー・ペダルを踏んではならない。パーキングの索が切れる事がある。

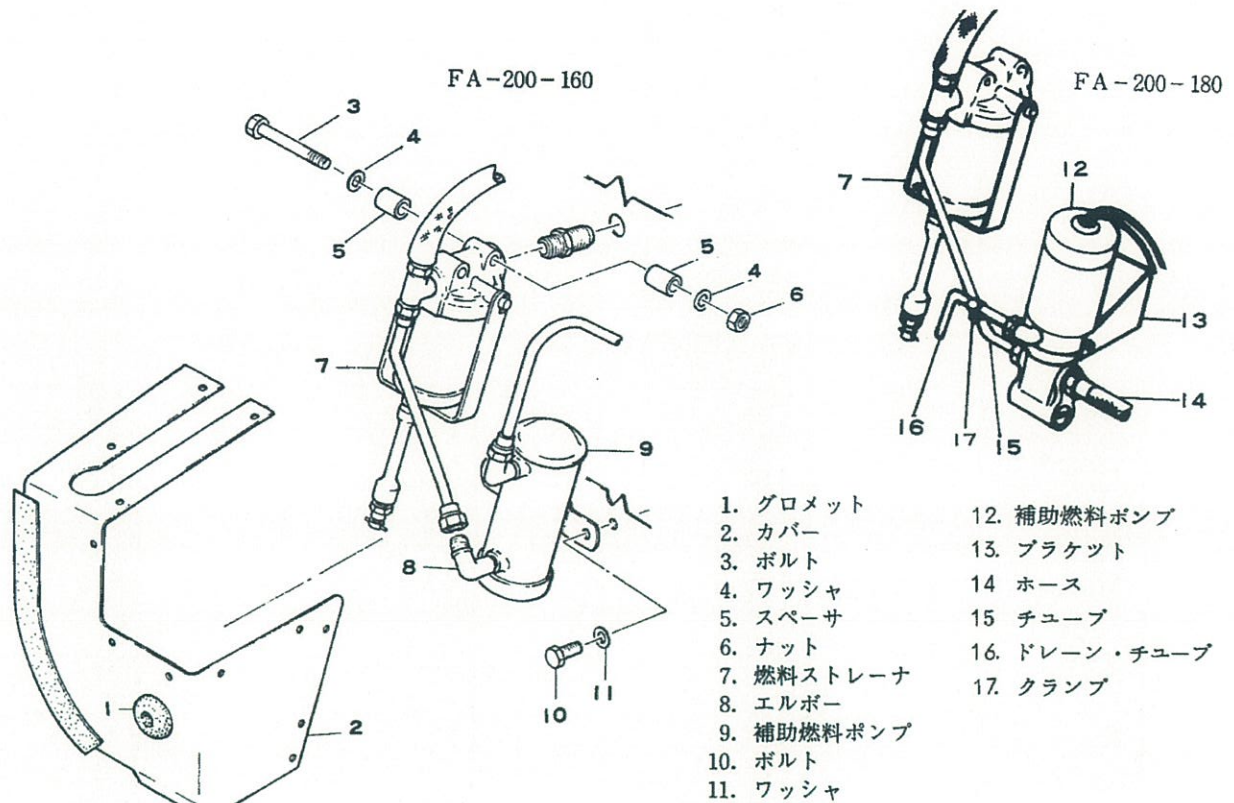


図 6-8 補助燃料ポンプ取付

- (1) 底部のカバー、ガスケット、マグネットおよびフィルタスクリーンをポンプから取りはずす。

注 意

ポンプハウジングよりフィルタ・スクリーンを取りはずす際損傷あたえないよう注意すること。

- (2) うすいノーズプライヤをもちいてプランジャチューブからリテーナスプリングをはずす。
(3) ワッシャ、“O”リングシール、カップバルブおよびプランジャ組立をポンプから取りはずす。

警 告

プランジャ組立から緩衝スプリングとバルブは取りはずさないこと。ポンプ上部区域の電気系統部全体には不活性ガスが入っており、ポンプの側方取付用ブラケットの中心でシールしてあるのでこの区域はいじらぬこと。

6-9-4 ベンディックス補助燃料ポンプの洗浄・点検および修理

- (1) 全ての部品をアセトンまたは相当するドライ・タイプ溶剤で洗浄する。プランジャ組立を洗浄してもき

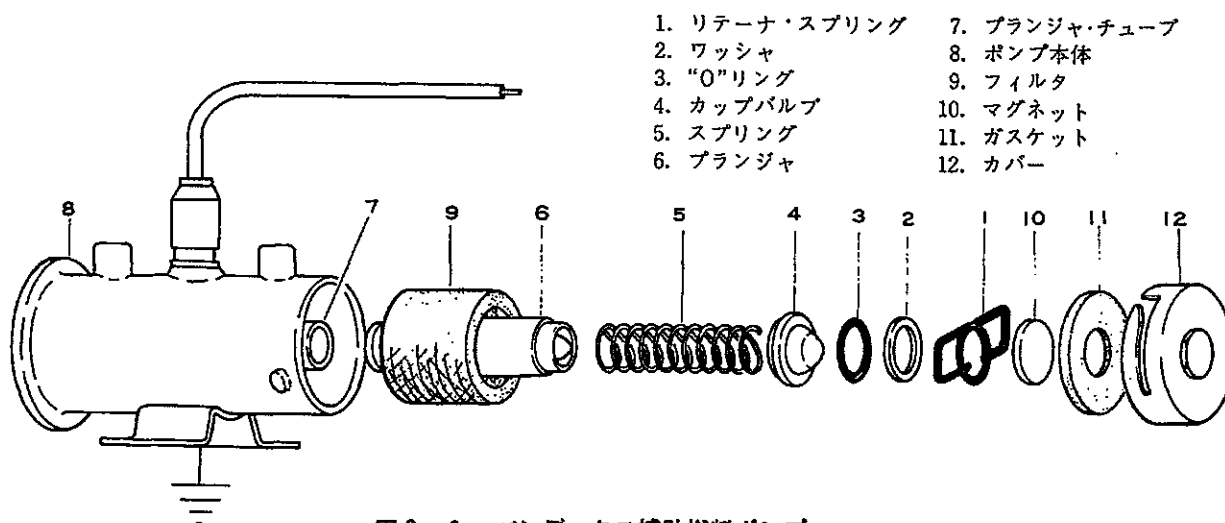


図 6-9 ベンデックス補助燃料ポンプ

れいにならないとき、または粗いしき、よごれがとれない時はクロッカス・クローズで軽くみがく。

(2) ポンプの点検をつぎの手順で行う。

- a. フィルタ・スクリーンの損傷または変形がないか点検する。
- b. カップ・バルブを軽くつまみ円滑に作動するか点検する。カップ・バルブは分解してはならない。
- c. プランジャ組立を耳のそばで振り、バルブの作動が正常かカチッという音で確認する。
- d. (削除)
- e. カバーガスケットおよびプランジャスプリング、カップガスケットの状態を点検する。

(3) ポンプの修理は点検結果損傷部品があった時の部品交換に限られる。

6-9-5 ベンディックス補助燃料ポンプの組立 (図 6-9 参照)

- (1) プランジャ・アセンブリ (6) を緩衝端部を先にしてチューブ内に挿入する。チューブ内のプランジャをゆっくり上げ下げすることにより完全に組み込まれたか確認する。ひっかかりがなくスムーズに作動しなければならない。もしカチッと音が聞えない場合はインターラプター・アセンブリが完全な機能を果たさないでポンプを交換しなければならない。
- (2) 図 6-10 に示すようにプランジャ・スプリング、カップ・バルブ (4)、“O”リング・シール (3) およびワッシャ (2) を取り付ける。スプリング (5) を圧縮し、チューブ (7) の横孔にリティナー (1) の端部を組み込む。“O”リングは新品と交換すること。
- (3) カバー (12) 端部にガスケット (11) とマグネット (10) を組み合せフィルタ (9) およびカバー・アセンブリを組み立てる。ポンプ・ハウジング (8) の部分を保持し手でカバーをまわす。5/8 インチを用い、カバーを底に確実に締め付ける。

警 告

ポンプ上部取付ブラケットの中心にあるシールを叩いてはならない。

この部分は電気系統をつつんでいるドライ・ガスが入っている。

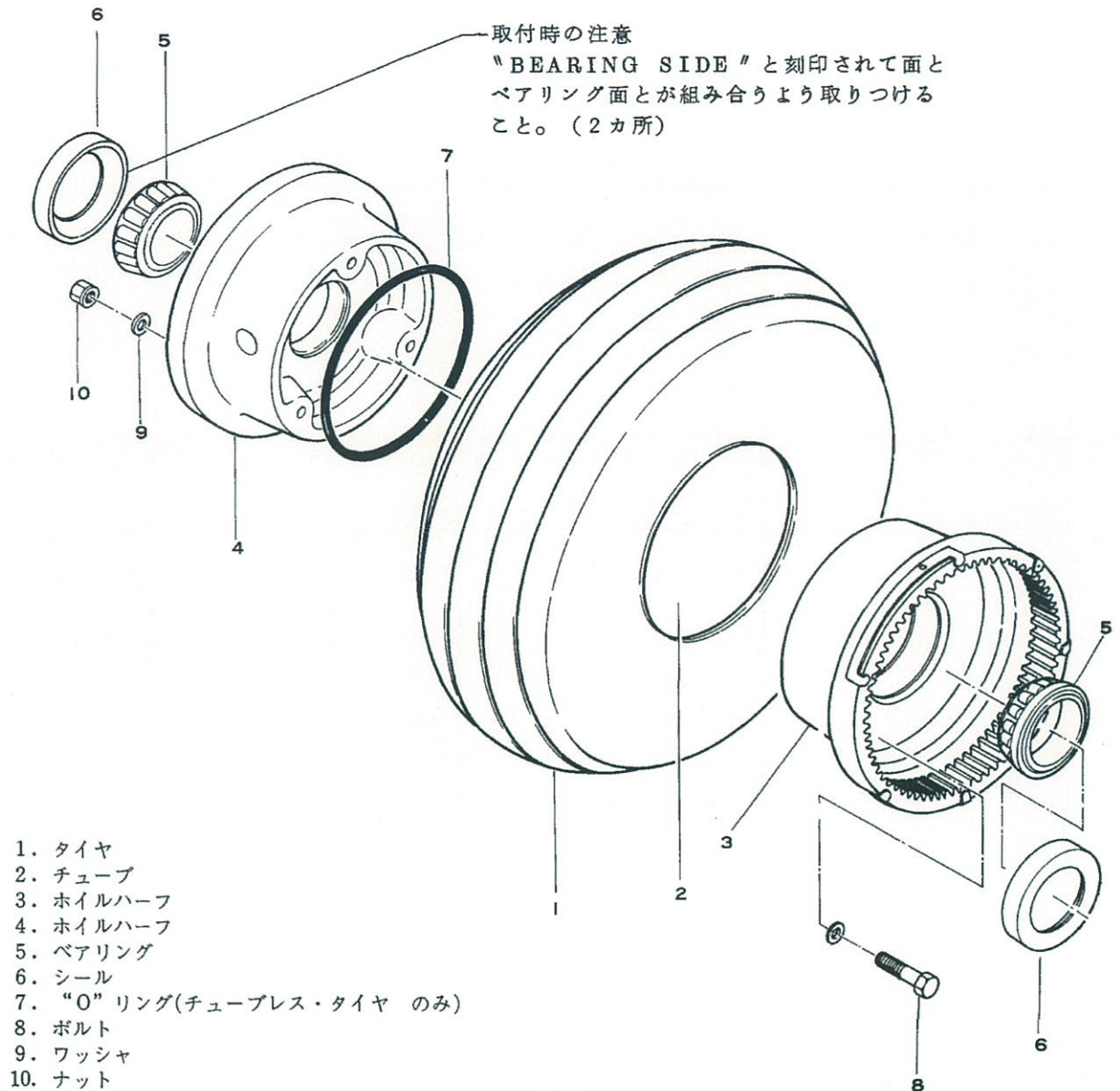


図 9-3 主車輪

9-3-7 主車輪の分解 (図 9-3 参照)

- (1) バルブコアを取りはずしタイヤから完全に空気を抜く。
- (2) ホイル・フランジからタイヤ・ビードをはずす。
- (3) ホイル組付のナット、ワッシャ、およびボルトを取りはずす。
- (4) ホイルを2つ割りにしタイヤ、およびチューブを取りはずす。



注 意

ベアリング、キャップはホイールに圧入されており交換の必要がないかぎり取りはずしてはならない。もしベアリング・キャップを交換する時はホイールを、ふつとした湯に 30 分間ひたすか 149 °C (300 °F) 以上にならないように加熱して取りはずす。

9-3-8 主車輪の洗浄および点検

- (1) すべての金属部品をドライ・クリーニング溶剤 (P-S-661) で洗浄しかわす。
- (2) ホイールに損傷およびクラックがないか点検する。もし鋳物にクラックおよび過度の腐食があるものは交換する。小さなかき傷やへこみは細かいサンドペーパー (#400) で仕上げる。表面処理がされている部分のはがれやかき傷は十分に洗浄しジंकロを 2 回塗りアルミニウム・ラッカーを 2 回塗る。
- (3) ホイールのディスク・ドライブ歯面の損傷および摩耗を点検する。もし歯先から 0.100 IN のところの 0.070 IN の厚さの部分で摩耗が 3 枚またはそれ以上ある場合はホイールを交換する。点検は下記の図のゲージを作り正確に寸法を点検する。

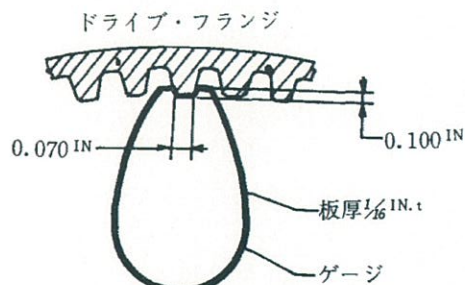


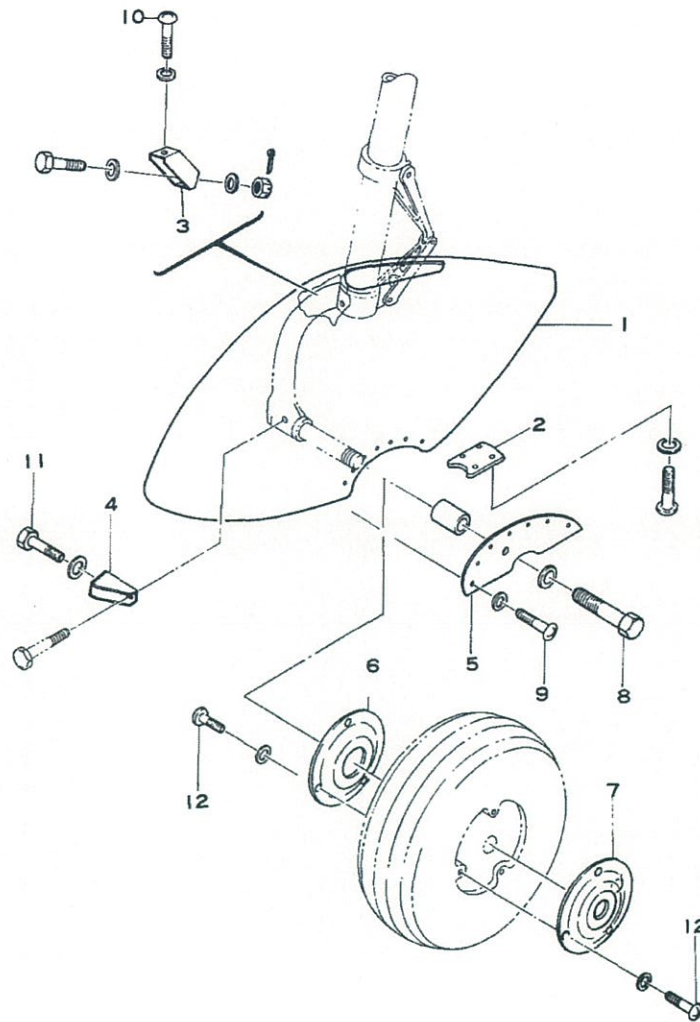
図 9-4 ディスク・ドライブ歯面摩耗測定用ゲージ

- (4) ベアリング・キャップの損傷および摩耗を点検する。ベアリング・キャップは交換の必要が生じない限りホイールから取りはずしてはならない。
- (5) ベアリング・コーンをドライクリーニング溶剤で洗浄し損傷および摩耗を点検する。ベアリングに異常がなければ新しいグリースを塗りキャップに再取り付けする。
- (6) ベアリングシールのシーリング作用に影響するかき傷、変形、および損傷について点検する。損傷部品は交換する。
- (7) ディスク・クリップの取り付け状態、クラックおよび腐食について点検する。必要に応じ交換する。

9-3-9 主車輪の組立 (図 9-3 参照)

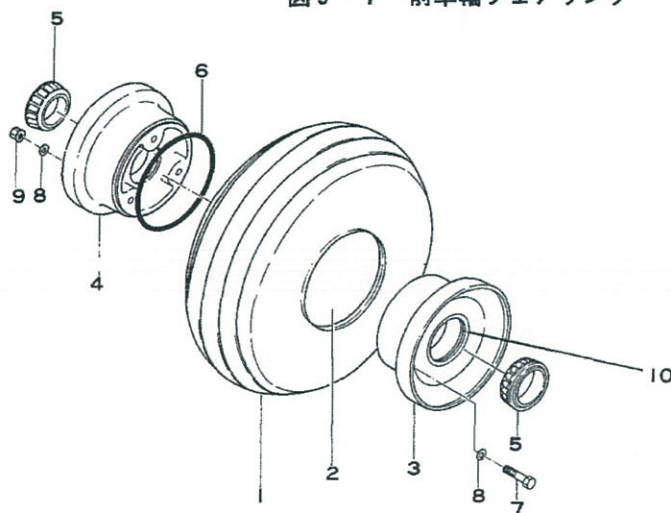
以下の手順により組立てること。また、“O” リングは新品と交換すること。

- (1) チューブ挿入を容易にし、またチューブ保護のためタルカン・パウダーをタイヤ、ケースに散布する。
- (2) チューブをたんでタイヤケース内に入れる。
- (3) チューブのバランス・マークをタイヤの赤い点に合せる。バランス・マークがなければバルブを赤い点に合せる。
- (4) バルブをバルブ孔から出し各ホイールのバランス・マークに合せてホイールを組付ける。



1. フェアリング
2. スクレッパ
3. 金 具
4. ブラケット
5. プレート
6. キャップ
7. キャップ
8. ボルト
9. スクリュ
10. スクリュ
11. スクリュ
12. スクリュ

図 9-7 前車輪フェアリング



1. タイヤ
2. チューブ
3. ホイル・ハーフ
4. ホイル・ハーフ
5. ベアリング
6. Oリング (チューブレス・タイヤのみ)
7. ボルト
8. ワッシャ
9. ナット
10. ベアリング・カップ

図 9-8 前車輪



9-4-5 前車輪の分解 (図 9-8 参照)

- (1) バルブ・ステムからバルブ・コアを取りはずし完全にタイヤから空気を抜く。
- (2) フランジからタイヤビードをはずす。
- (3) ホイル組付のナット、ワッシャおよびボルトを取りはずす。
- (4) ホイルを 2 つに割りタイヤ、およびチューブを取りはずす。
- (5) ベアリング・キャップは交換の必要がないかぎり取りはずさない。もし交換する時はふっとうした湯にひたすかまたは 149 °C 以上にならないように加熱して取りはずす。

9-4-6 前車輪の洗浄および点検

- (1) 全ての部品をドライクリーニング溶剤 (P-S-661 または相当品) で洗浄しかわかす。
- (2) ホイルのクラック、ニック、へこみを点検する。小さなかき傷は細かいサンドペーパーで仕上げ処理を施す。クラックのはいったホイルは使用してはならない。
- (3) ベアリングコーンおよびキャップの損傷および過度の摩耗を点検する。ベアリングをドライクリーニング溶剤で洗浄しかわかしてコーンにグリース (MIL-G-3545) を塗る。

9-4-7 前車輪の組立 (図 9-8 参照)

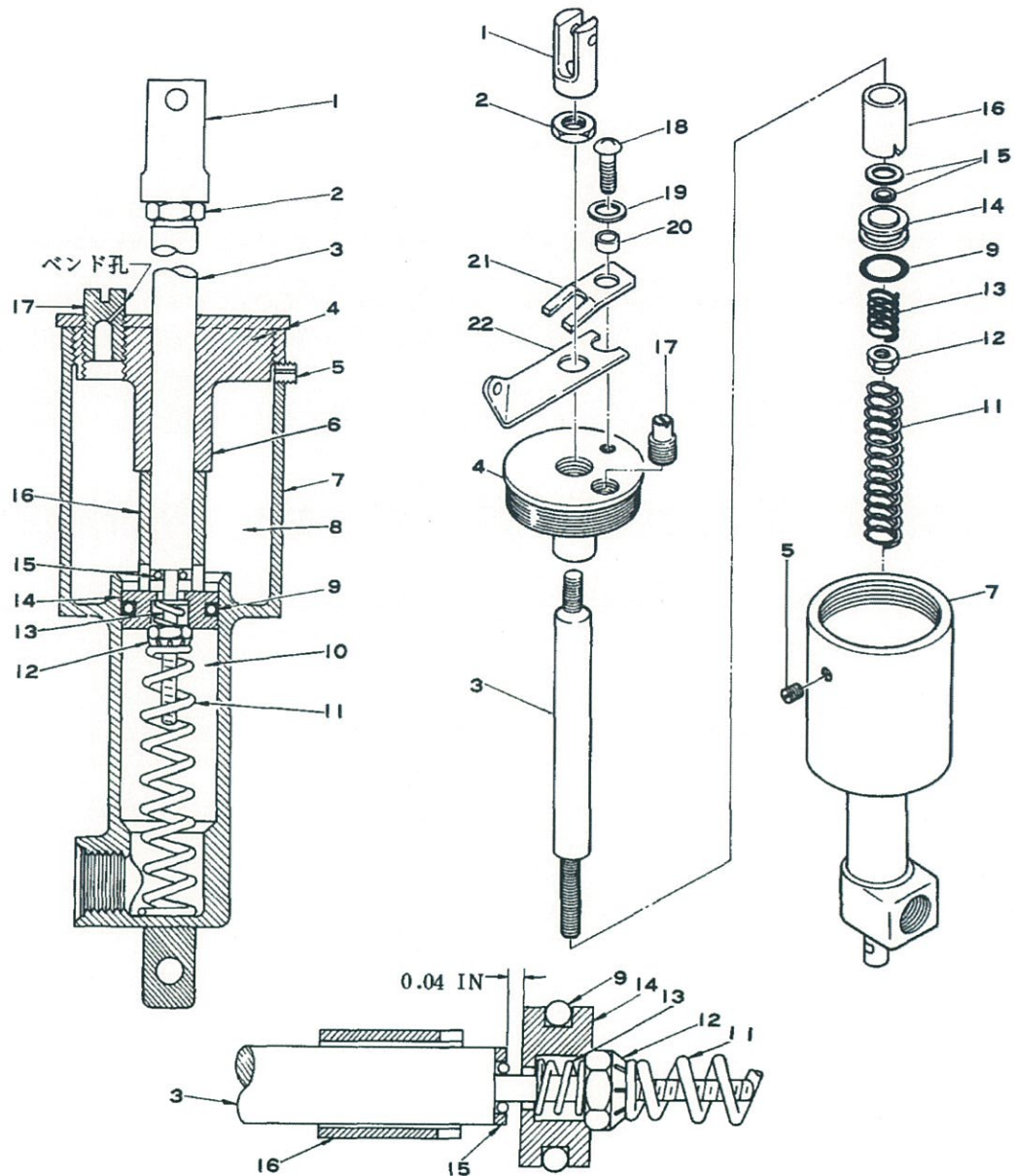
以下の手順により組立てること。また、“0” リングは新品と交換すること。

- (1) ベアリング・カップが取りはずしてある場合はホイール・ハーフを 149 °C (300 °F) に 30 分間加熱しベアリング・カップをドライアイスで冷して取り付ける。
- (2) チューブ挿入を容易にしました、チューブ保護のためタルカン・パウダーをタイヤケース内に散布する。
- (3) チューブをたたくでタイヤケース内に入れる。
- (4) チューブのバランス・マーク (黄色帯状) をタイヤのバランス・マーク (赤い点) に合せる。チューブにバランス・マークがなければバルブを赤い点に合せる。
- (5) バルブをバルブ孔に合せてホイール・ハーフを組付ける。ボルト孔を合せて、反対側のホイール・ハーフを組付けて、83 IN-LBS の締付トルクで締付ける。
- (6) 空気を入れたり出したりしてチューブのシワをとりタイヤの縁をしっかりととめた後、規定の空気圧に注気する。

9-4-8 前脚緩衝支柱の分解 (図 9-9 参照)

次の手順は機体から取りはずされた緩衝支柱について述べる。ホイール、脚柱カバー、およびフェアリングの取りはずしは前項手順による。

- (1) エア・バルブ・キャップ (1) をはずしバルブ・コア (2) より空気を完全に抜く。
- (2) エア・バルブ・ボディ (3) をプラグ (6) より取りはずす。
- (3) スナップリング (5) をはずしてストッパ (8) プラグおよび “0” リング (7) をシリンダ上部より取り出す。
- (4) オリフィスチューブ (9) を抜き出す。
- (5) オイルを排出する。
- (6) トルク・リンク (23) を取りはずす。



- | | |
|------------|---------------|
| 1. クレビス | 12. ナット |
| 2. ナット | 13. パネ |
| 3. ピストンロッド | 14. ピストン |
| 4. カバー | 15. ロック-O-シール |
| 5. ビス | 16. スリーブ |
| 6. カバー | 17. 注入栓 |
| 7. 本体 | 18. ビス |
| 8. 油だめ | 19. ワッシャ |
| 9. "O"リング | 20. スペーサー |
| 10. シリンダー | 21. パネ |
| 11. パネ | 22. 板 |

図9-12 ブレーキ・マスターシリンダ



9-5-4 マスター・シリンダの修理

マスター・シリンダの分解、修理および組立は図 9-12 を参照して行なう。修理は洗浄、調整、および部品交換に限られる。また、マスター・シリンダの分解時、“O” リングは新品と交換すること。

9-5-5 ホイール・ブレーキ (図 9-13 参照)

油圧作動のシングル・ディスク・ブレーキが各主車輪の軸に取り付けられている。ブレーキ・ハウジングには油圧ブレーキ・ピストンとアンビルおよびピストン・ブレーキ・ライニングがはいっている。ブレーキ・ディスクはアンビルとピストン・ブレーキ・ライニングの間にホイールとともに回転する。ラダー・ペダルを踏むことにより油圧はマスター・シリンダからブレーキに伝わりブレーキを作動させる。

9-5-6 ホイール・ブレーキの取りはずし

- (1) 9-3-5 項により、ホイールを取りはずす。
- (2) ブレーキ配管の接続をはずす。
- (3) ブレーキ・ハウジングを車軸に取りつけているナットおよびボルトをはずしブレーキ・ハウジングを車軸から取りはずす。

9-5-7 ホイール・ブレーキの分解 (図 9-13 参照)

- (1) ブレーキ・ハウジングよりブレーキ・ディスク、およびブレーキ・ライニングを取りはずす。
- (2) ブリーダ・スクリュおよびブリーダ・ワッシャを取りはずす。
- (3) リテーニング・リングを取りはずし、シリンダ・ヘッドおよびシリンダ・ヘッド “O” リングを取りはずす。
- (4) ブレーキ・ハウジングからピストンを抜き出す。
- (5) ピストンから “O” リングシールを取りはずす。
- (6) ブレーキ・ハウジングよりプラグおよびガスケットを取りはずす。

9-5-8 ホイール・ブレーキの洗浄、点検および修理

- (1) 全ての金属部品はドライクリーニング溶剤で洗浄し充分にかわかす。
- (2) 摩耗および損傷部品は交換または修理する。
- (3) 1/16 IN 以上のへこみのあるブレーキ・ディスクは交換する。
- (4) 厚さが 0.225 IN 以下のブレーキ・ディスクは交換する。
- (5) ブレーキ・ハウジングの摩耗および損傷を点検する。小さなニックまたは腐食は細かいサンド・ペーパー (#380) で仕上げ、ジंकロを 2 回塗り、その後アルミニウム・ラッカーを 2 回塗る。
- (6) シリンダ面およびピストンの摺動面の損傷を点検する。小さなかききずおよびニックは細かいサンドペーパー (#400) で取りのぞく。
- (7) ブレーキ・ライニングは 3-2-15 項により点検し許容値以下のものは交換する。ライニング交換はセットで行なう。使用されたライニングと新品を混用してはならない。

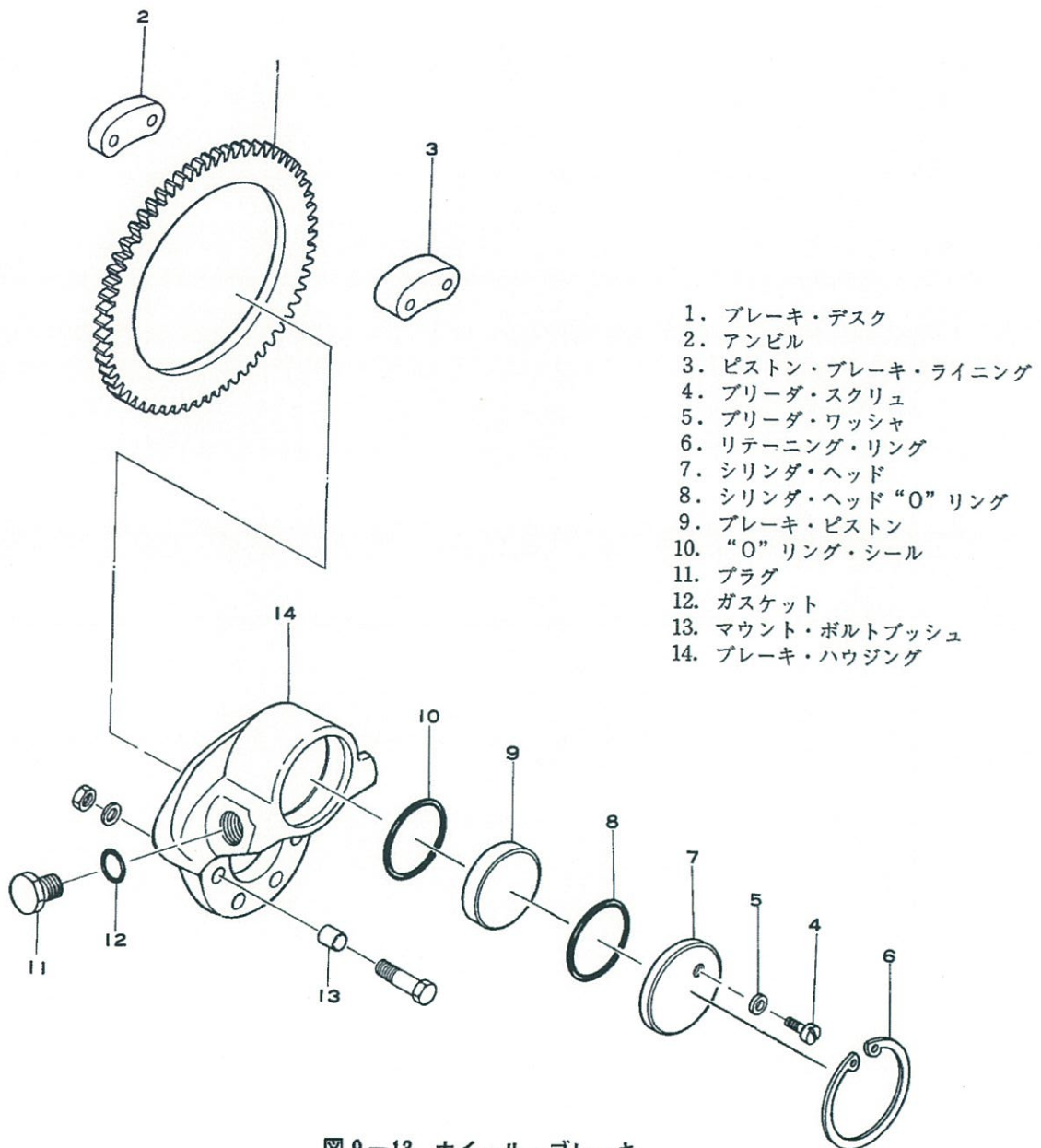


図 9-13 ホイール・ブレーキ

9-5-9 ホイール・ブレーキの組立 (図 9-13 参照)

- (1) ブレーキ・ハウジングのシリンダ面、ピストン摺動面およびシリンダ・ヘッドに MIL-G-7711 または同等のグリースを塗る。
- (2) シリンダ・ヘッド “O” リングシールを新品と交換し、MIL-G-7711 または同等のグリースを塗りシリンダ・ヘッドに取り付ける。
- (3) ピストン “O” リング・シールを新品と交換し、MIL-G-7711 または同等のグリースを塗りピストンに取り付ける。
- (4) ピストンの厚い部分をブレーキ・ライニング側にしてピストンをブレーキ・ハウジングに取り付ける。



- (5) 機体に取り付けた時シリンダ・ヘッドのブリーダ孔が上部に位置しかつ、リテーニング・リング端部の間になるようにシリンダ・ヘッドをブレーキハウジングにリテーニング・リングで取り付ける。
- (6) 厚いブレーキ・ライニングのなめらかな方をディスク側としてブレーキ・ハウジングのピストン側に取り付ける。
- (7) 薄いブレーキ・ライニングのなめらかな方をディスク側としてブレーキ・ハウジングのアンビル側に取り付ける。
- (8) ブレーキ・ライニングの間にブレーキ・ディスクを取り付ける。
- (9) ガasketを新品と交換し、ガスケットおよびプラグをブレーキ・ハウジングに取り付ける。
- (10) ブリーダ・スクリュおよびブリーダ・ワッシャを取り付ける。

9-5-10 ホイール・ブレーキの取り付け

取り付けは取りはずしの手順を逆に行ない9-5-11 項によりブレーキ系統の空気抜きを行なう。

9-5-11 ブレーキ系統の空気抜き (図 9-14 参照)

- (1) マスター・シリンダ給油孔蓋をはずし、給油孔内にホース組立を取付ける。ホースの他端を充分浸せる程度にブレーキ作動油を入れた缶の中に挿入する。
- (2) ブレーキ組立からブリーダー・スクリュをはずし、プラグ組立 (200-590067-001) およびホース又はハンドポンプとブリーダー孔を通じさせる。ブレーキ組立のところで油が導入されるに伴い、ブレーキ系統から気泡が押し出されてくる徴候をたしかめるため、マスター・シリンダに取付けられたホースの油に浸された端部を観察する。気泡の発生が終ったときに、ブレーキ組立に取付けたブリーダー・ホースを取りはずし、ブリーダー・小ネジと新しいワッシャを取り付ける。

注 意

マスター・シリンダに取付けられたホースの他端が空気抜き過程の間中、油に浸されたままに保ち (2) の手順が完了するまで引き出さないように注意する。

- (3) ホース組立をマスター・シリンダから取りはずし、給油孔蓋をつける。

9-6 パーキングブレーキ装置

パーキングは、ブレーキを踏んだ状態で操作ノブを引き、時計方向に回して固定する。操作ノブを引く事によってマスター・シリンダについているロック用プレートを引き上げる。この状態でラダー・ペダルを踏んではならない。パーキングの索が切れる事がある。